

科目名	社会・地理歴史科教育法 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	地理歴史科の教育的意義と指導理論・方法を学び、実践的な授業手法を身につける。		
授業の目的及び概要	<p>・地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養することを目的とする。</p> <p>・本講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、学習内容をより発展させる方向性について考える。</p> <p>・なお、「社会・地理歴史科教育法Ⅱ」とのすみ分けを意識し、本講義では地理教育分野に軸足を置いて行うものとする。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>ここでは、以下の 3 点を到達目標とする。ただし、本講義では地理教育分野を中心に学修を進める。</p> <p>①学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。</p> <p>②地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。</p> <p>③地理歴史科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>1. 毎回の授業などで提出する振り返りシート（またはアンケートフォーム）に対して教員がコメントを付して返却する。</p> <p>2. 学生が提出した課題（レポート、指導案、教材など）について、教員がコメントを付して返却する。</p> <p>3. 模擬授業では教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編，文部科学省，東洋館出版社，2019 年	ISBN	9.7844910364e+12
参考書	<p>①高等学校学習指導要領（平成 30 年告示），文部科学省，東山書房，2018 年</p> <p>②中学校学習指導要領（平成 29 年告示），文部科学省，東山書房，2017 年</p> <p>③中学校学習指導要領（平成 29 年）解説 社会編，文部科学省，東洋館出版社，2018 年</p> <p>④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社，2021 年</p>	ISBN	<p>①9784827815672</p> <p>②9784827815795</p> <p>③9784491034713</p> <p>④9784491047010</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0

	【定期試験】レポート試験	20
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	【定期試験】WEB 試験	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>・本授業では、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを通じて、地理歴史科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。</p> <p>・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。</p> <p>・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	地理教育の意義と課題① ▷ 日本の地理教育における歩み、「地理総合」必修化にいたる経緯と背景	事前 本講義のシラバスを熟読し、授業内容について予習を行ってくること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第2回	対面	地理教育の意義と課題② ▷ 学習指導要領および教科書における地理教育の特徴 ▷ 地理総合と地理探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第3回	対面	日本と諸外国の地理教育 ▷ 地理教育における日本と諸外国との比較 ▷ 異文化理解	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第4回	対面	地理教材の活用法①（地理的スキル①） ▷ 地誌学習の意義と役割 ▷ GIS システムなど ICT を活用した地誌学習（日本）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第5回	対面	地理教材の活用法②（地理的スキル②） ▷ 学習内容に応じた教材選定のポイント ▷ GIS システムなど ICT を活用した地理学習（主題学習 動態地誌）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第6回	対面	地理教育における様々な評価方法 ▷ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後	4時間

			授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	
第7回	対面	統計調査や野外調査の分析と考察(地理的スキル③) ▷ 地理各種統計調査や野外調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第8回	対面	授業の計画と学習指導案作成①(地理総合) ▷ 単元構想と学習内容の位置づけ ▷ 指導案作成のポイント	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第9回	対面	授業の計画と学習指導案作成②(地理総合) ▷ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。作成した学習指導案を発表できるように準備してこること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第10回	対面	授業実践①(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ GISシステムなどICTを活用した模擬授業の実践(地理総合)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第11回	対面	授業実践②(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 統計調査を活用した模擬授業の実践(地理探究)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第12回	対面	ハザードマップの作成と防災教育(地理的スキル④) ▷ 重ねるハザードマップの活用例	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第13回	対面	授業実践③(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 日本地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第14回	対面	授業実践④(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 世界地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに	4時間

			復習を行ってくること。	
第15回	オンデマンド	地理教育における授業の総括(オンデマンド授業) ▷ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 これまでの授業内容について総復習を行っておくこと。 事後 理解が不十分だったところや要点などをノートにまとめておくこと。	4時間

科目名	社会・地理歴史科教育法Ⅱ	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	地理歴史科の教育的意義と指導理論・方法を学び、実践的な授業手法を身につける。		
授業の目的及び概要	<p>・地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養することを目的とする。</p> <p>・本講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、学習内容をより発展させる方向性について考える。</p> <p>・なお、「社会・地理歴史科教育法Ⅰ」とのすみ分けを意識し、本講義では歴史教育分野に軸足を置いて行うものとする。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>ここでは、以下の 3 点を到達目標とする。ただし、本講義では歴史教育分野を中心に学修を進める。</p> <p>①学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。</p> <p>②地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。</p> <p>③地理歴史科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>1. 毎回の授業などで提出する振り返りシート（またはアンケートフォーム）に対して教員がコメントを付して返却する。</p> <p>2. 学生が提出した課題（レポート、指導案、教材など）について、教員がコメントを付して返却する。</p> <p>3. 模擬授業では教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編，文部科学省，東洋館出版社，2019 年	ISBN	9.7844910364e+12
参考書	<p>①高等学校学習指導要領（平成 30 年告示），文部科学省，東山書房，2018 年</p> <p>②中学校学習指導要領（平成 29 年告示），文部科学省，東山書房，2017 年</p> <p>③中学校学習指導要領（平成 29 年）解説 社会編，文部科学省，東洋館出版社，2018 年</p> <p>④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史，国立教育政策研究所教育課程研究センター，東洋館出版社，2021 年</p>	ISBN	<p>①9784827815672</p> <p>②9784827815795</p> <p>③9784491034713</p> <p>④9784491047010</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0

	【定期試験】レポート試験	20
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	【定期試験】WEB 試験	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>・本授業では、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを通じて、地理歴史科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。</p> <p>・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。</p> <p>・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	”歴史教育の意義と課題① ▷ 日本の歴史教育における歩み、「歴史総合」必修化にいたる経緯と背景”	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第2回	対面	歴史教育の意義と課題② ▷ 学習指導要領および教科書における歴史教育の特徴 ▷ 歴史総合と世界史探究、日本史探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第3回	対面	日本と諸外国の歴史教育 ▷ 歴史教育における日本と諸外国との比較 ▷ 異文化理解（多様性、マイノリティ、多文化主義など）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第4回	対面	歴史教材の活用法①（歴史的スキル①） ▷ 様々な写真や図を活用した歴史学習（日本）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第5回	対面	歴史教材の活用法②（歴史的スキル②） ▷ 様々な写真や図を活用した歴史学習（海外）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第6回	対面	歴史教育における様々な評価方法 ▷ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。	4時間

			事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	
第7回	対面	文献および各種調査、客観的データの分析と考察（歴史的スキル③） ▷ 歴史的資料や各種調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第8回	対面	授業の計画と学習指導案作成①（歴史総合） ▷ 単元構想と学習内容の位置づけ ▷ 指導案作成のポイント	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第9回	対面	授業の計画と学習指導案作成②（歴史総合） ▷ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第10回	対面	授業実践①（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（歴史総合）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第11回	対面	授業実践②（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第12回	対面	授業実践③（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第13回	対面	授業実践④（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ ビジュアル教材を活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第14回	対面	授業実践⑤（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ フィールドワークを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後	4時間

			授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	
第15回	オンデマンド	歴史教育における授業の総括(オンデマンド授業) ▷ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 授業で取り上げた基本的事項について一通り復習を行ってこること。 事後 本授業で出されたプリントなどを中心に復習を行っておくこと。	4時間



科目名	社会・公民科教育法 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	手取 義宏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	社会科・公民科の基礎理論と授業づくり		
授業の目的及び概要	今それぞれがいる場所でよりよい社会・コミュニティをつくることのできる人間を育てるには私たちはどのような教育を行う必要があるだろうか。その問いに社会科・公民科の教員という立場からビジョンを持って実践に取り組み、試行錯誤しつつ具体化できるような力量を身につけることを目指して、社会科・公民科の基礎理論と授業づくりの学びを開始する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	社会科・公民科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。具体的には、 1. 社会科・公民科授業の基礎的な理論を理解すること、 2. 社会科・公民科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について知ること、 3. 社会科・公民科の授業デザインの理論と方法を身につけ、学習指導案が作成できること、 4. 模擬授業の実践と批評を通して授業実践力の基礎を身につけること、 が到達目標である。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回コミュニケーションカードを提出してもらい、講義内でその質問や意見などを取り上げてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省平成 30 年）	ISBN	4487286336
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	この授業を通して、社会科・公民科についてのイメージを拡張し、より豊かな授業の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていききたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	社会科・公民科の意義と教師の役割	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第2回	対面	社会科・公民科授業の構成要素	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第3回	対面	社会科・公民科の目標	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第4回	対面	社会科・公民科の内容とカリキュラム	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第5回	対面	社会科・公民科の教授方法	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第6回	対面	社会科・公民科の評価	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第7回	対面	社会科・公民科における授業デザイン論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第8回	対面	社会科・公民科における発問と問いの理論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第9回	対面	社会科・公民科における教材論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第10回	対面	社会科・公民科におけるファシリテーション	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第11回	対面	社会科・公民科における対話	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第12回	対面	授業の実践例（公共）① 「公共」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第13回	対面	授業の実践例（公共）② 公共的空間における人間の在り方	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第14回	対面	授業の実践例（公共）③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	復習：社会科・公民科の授業づくりのポイント	映像を視聴してワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間

科目名	社会・公民科教育法Ⅱ	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	手取 義宏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	社会科・公民科の授業づくりと授業実践		
授業の目的及び概要	今それぞれがいる場所でよりよい社会・コミュニティをつくることのできる人間を育てるには私たちはどのような教育を行う必要があるだろうか。その問いに社会科・公民科の教員という立場からビジョンを持って実践に取り組み、試行錯誤しつつ具体化できるような力量を身につけることを目指して、社会科・公民科の基礎理論と授業づくりの学びを開始する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	社会科・公民科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。具体的には、 1. 社会科・公民科授業の基礎的な理論を理解し、授業デザインとして具体化できること 2. 社会科・公民科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について実践的に理解すること 3. 社会科・公民科の授業デザインの理論と方法を身につけ、学習指導案が作成できること、 4. 模擬授業の実践と批評を通して授業実践力の基礎を身につけること、 が到達目標である。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回コミュニケーションカードを提出してもらい、講義内でその質問や意見などを取り上げてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省平成 30 年）	ISBN	4487286336
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	この授業を通して、社会科・公民科についてのイメージを拡張し、より豊かな授業の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていききたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	授業の実践例（公共）④ 持続的な社会づくりのための主体	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第2回	対面	授業の実践例（公共）⑤ 「公共」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第3回	対面	授業の実践例（倫理）① 「倫理」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第4回	対面	授業の実践例（倫理）② 人間としての生き方と倫理観・世界観	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第5回	対面	授業の実践例（倫理）③ 国際社会に生きることの自覚	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第6回	対面	授業の実践例（倫理）④ 現代の諸課題と倫理	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第7回	対面	授業の実践例（倫理）⑤ 「倫理」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第8回	対面	授業の実践例（政治・経済）① 「政治・経済」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第9回	対面	授業の実践例（政治・経済）② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第10回	対面	授業の実践例（政治・経済）③ 現代日本の政治と経済の課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第11回	対面	授業の実践例（政治・経済）④ 国際社会の諸課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第12回	対面	授業の実践例（政治・経済）⑤ 「政治・経済」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第13回	対面	公民科における発展的な学習内容 社会参加のデザイン	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第14回	対面	発展的な学習内容とその指導 探究と PBL	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第15回	オンデマンド	講義のふりかえり	講義を通して学んだことをふりかえり、教育実習・教員採用試験・および新任教師として教壇に立つための課題を整理します。	4時間

科目名	教育基礎論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想		
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	<p>①『中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2020)</p> <p>②『高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2018)</p> <p>③『考えを深めるための教育原理』佐藤光友、奥野浩之 編 ミネルヴァ書房(2020)</p> <p>④『よくわかる 教育原理』汐見稔幸 他 編 ミネルヴァ書房(2011)</p>	ISBN	<p>①9784827815795</p> <p>②9784827815672</p> <p>③9784623088065</p> <p>④9784623059263</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		50

	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答を求める。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手入するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。</p> <p>授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。</p> <p>定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。ノート作りについては、授業内で助言します。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念 人間と教育 人間形成と教育の本質	事前： ウェブページの検索（検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	対面	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	対面	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	対面	社会・文化と教育 ② 教育の構成基盤とその関係の変化 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	対面	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	対面	現代社会と教育 ② ジェンダーを題材に学校教育を考える ポスト・モダンの学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第7回	対面	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察 古代文明と学習施設の発生から考える 西洋古代の社会と家族における教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	対面	教育の歴史 ② 西洋古代の家庭、子どもと学習 西洋中世の大学と庶民の教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	対面	現代社会と教育 ③ 西洋中世の社会と大学・学問から考える 「学校」の叢生とその系統化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	対面	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現 公教育制度存立の社会的基盤	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	対面	近代公教育の成立 ② 公教育形成期の社会と家庭と子ども 公教育の思想と教育の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	対面	欧米の教育思想家 子どもと家庭的環境への注目 学校での学習に関する思想的転換	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	対面	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第14回	対面	戦後日本の公教育 教育を受ける権利と公教育の法理念 公教育の法理念と家庭や子ども	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	オンデマンド	日本の公教育の今日的課題 各自の考える問題についてまとめる	事前： ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

科目名	教育基礎論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想		
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントについては、できる限り適宜、回答、補足説明します。内容によっては、翌週の授業にて行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	<p>①『中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2020)</p> <p>②『高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2018)</p> <p>③『考えを深めるための教育原理』佐藤光友、奥野浩之 編 ミネルヴァ書房(2020)</p> <p>④『よくわかる 教育原理』汐見稔幸 他 編 ミネルヴァ書房(2011)</p>	ISBN	<p>①9784827815795</p> <p>②9784827815672</p> <p>③9784623088065</p> <p>④9784623059263</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		50



	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、多くの発問をしながら進めるので、“能動的な”「聞き」と積極的な回答を求める。</p> <p>また、授業中の資料提示が多いので、授業をサボっておいて、事後に配布プリントとノートを手入するだけでは、学修が不十分となるので、この自覚を持って、受講すること。</p> <p>なお、授業に際しては出席を取るが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席や遅刻をしないよう心がけることが大事である。</p> <p>授業に大幅に遅れての入室は謹んでもらいたい。</p> <p>定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。ノート作りについては、授業内で助言します。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念 人間と教育 人間形成と教育の本質	事前： ウェブページの検索（検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	対面	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	対面	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	対面	社会・文化と教育 ② 教育の構成基盤とその関係の変化 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	対面	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	対面	現代社会と教育 ② ジェンダーを題材に学校教育を考える ポスト・モダンの学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第7回	対面	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察 古代文明と学習施設の発生から考える 西洋古代の社会と家族における教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	対面	教育の歴史 ② 西洋古代の家庭、子どもと学習 西洋中世の大学と庶民の教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	対面	現代社会と教育 ③ 西洋中世の社会と大学・学問から考える 「学校」の叢生とその系統化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	対面	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度(学校の制度化)の出現 公教育制度存立の社会的基盤	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	対面	近代公教育の成立 ② 公教育形成期の社会と家庭と子ども 公教育の思想と教育の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	対面	欧米の教育思想家 子どもと家庭的環境への注目 学校での学習に関する思想的転換	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	対面	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第14回	対面	戦後日本の公教育 教育を受ける権利と公教育の法理念 公教育の法理念と家庭や子ども	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	オンデマンド	日本の公教育の今日的課題 各自の考える問題についてまとめる	事前： ウェブページの検索(検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する)、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

科目名	教職論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	平阪 美穂	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	「教職」について知り、進路を考える		
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	1) 現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2) 教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日的役割や資質能力について理解する。 3) 教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4) 多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週にコメントをします。 小テストは採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 30 年 ③教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0 Crossmedia Edition, 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕子（編）、昭和堂、2023 年	ISBN	① 9784827815795 ② 9784827815672 ③9784812222256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		40
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうか自問しつつ、「常識」ある行動や責任ある行動をとるよう心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められていると		

ということである。  
自らの行動が教員としてふさわしいかを考えて授業に参加してほしい。したがって授業への出席は基本である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教職の意義と役割及び進路としての教職	事後：履修要項をよく読んで、本学の教員養成の目標、希望する教員免許状に必要な科目、単位数について確認する。	2.5時間
第2回	対面	教員免許制度について	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第3回	対面	教員の職務	事前：教職とほかの専門職の共通点と相違点について考える。 事後：ノートを整理し、まとめる。	4時間
第4回	対面	教職像・教師像の変遷（1）戦前まで	事前：江戸時代から戦前までの歴史の復習をしておく。 事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第5回	対面	教職像・教師像の変遷（2）戦後から現在	事後：戦後の教職観に影響を与えた社会の変化について整理する。 事後：ノートを整理し、まとめる。小テストの勉強をする。	4時間
第6回	対面	教職に求められる資質能力	事後：90年代後半以降に求められた教員の資質・能力に影響を与えた社会背景について調べてまとめる。	4.5時間
第7回	対面	教職に求められる今日的役割：レポートの作成	教職に求められる今日的役割について整理し、レポートを作成する。	4.5時間
第8回	対面	教員の研修	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第9回	対面	教職に求められる職務上、身分上の義務	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。小テストの勉強をする。	4時間
第10回	対面	学校が抱える課題と教員の働き方改革	事後：文部科学省ウェブサイトの「学校における働き方改革～取組事例集～（令和2年2月）」を読んで、考察する。	4時間
第11回	対面	学校現場における教員の職務と役割	事後：学校現場における教員の職務、働き方について感想をまとめる。	4時間
第12回	対面	学校組織と校務分掌	事前：教員にはどのような仕事があるか書き出す。 事後：教員の役割としてどのようなものがあるか整理してまとめる。教職員間での連携の必要性について説明できるようにする。	4時間
第13回	対面	教員採用試験と求められる教員像	事後：関心のある自治体の教員採用試験について調べてまとめる。	4時間
第14回	対面	教師と専門家が連携したチーム的対応	事後：チーム学校における教員の役割、専門家との協働について考えをまとめる。 事前：学校、子どもが抱える問題としてどのようなものがあるか調べる。	4.5時間
第15回	オンデマンド	学び続ける教員と教員育成指標	事後：「大阪府教員等育成指標」（OSAKA教職スタンダード）をもとに、現在の自分自身を評価する。	4時間

科目名	教職論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	平阪 美穂	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	「教職」について知り、進路を考える		
授業の目的及び概要	この科目は、教職への進路選択を視野に入れつつ、現代社会における教職に関する様々な側面の理解を進めるために行う科目である。現代社会における教職の持つ意義、教職観、今日的な教師の役割、求められる資質能力、職務内容、職務上の諸義務などに関して取り上げて、理解を深める。なお、今日的な教師の役割、職務内容に関わって、「チーム学校」における教員の在り方についても取り上げる。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	1) 現代日本社会にとって、学校教育と教員という「職」が持つ社会的な意義について理解する。 2) 教育をめぐる状況や教育改革の動向を視野に入れつつ、教員に求められる今日的役割や資質能力について理解する。 3) 教員の職務内容の全体像を認識し、教員に課せられた服務や身分に関わる諸義務について理解する。 4) 多様化し、拡大しつつある、学校の果たすべき役割について認識し、役割達成のために、学校内外の専門家との連携・分担する必要があることを理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメント・ペーパーを書いてもらった場合は、翌週にコメントをします。 小テストは採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 30 年 ③教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0 Crossmedia Edition, 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕子（編）、昭和堂、2023 年	ISBN	① 9784827815795 ② 9784827815672 ③9784812222256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%） その他の内容		
この科目の受講にあたって	教員免許取得者としてふさわしいかどうか自問しつつ、「常識」ある行動や責任ある行動をとるよう心がけて欲しい。この「常識」とは、学生の常識ではなく、専門職として働く者としての「常識」であり、この「常識」がどのようなものであるかを意識することが求められていると		

ということである。  
自らの行動が教員としてふさわしいかを考えて授業に参加してほしい。したがって授業への出席は基本である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教職の意義と役割及び進路としての教職	事後：履修要項をよく読んで、本学の教員養成の目標、希望する教員免許状に必要な科目、単位数について確認する。	2.5時間
第2回	対面	教員免許制度について	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第3回	対面	教員の職務	事前：教職とほかの専門職の共通点と相違点について考える。 事後：ノートを整理し、まとめる。	4時間
第4回	対面	教職像・教師像の変遷（1）戦前まで	事前：江戸時代から戦前までの歴史の復習をしておく。 事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第5回	対面	教職像・教師像の変遷（2）戦後から現在	事後：戦後の教職観に影響を与えた社会の変化について整理する。 事後：ノートを整理し、まとめる。小テストの勉強をする。	4時間
第6回	対面	教職に求められる資質能力	事後：90年代後半以降に求められた教員の資質・能力に影響を与えた社会背景について調べてまとめる。	4.5時間
第7回	対面	教職に求められる今日的役割：レポートの作成	教職に求められる今日的役割について整理し、レポートを作成する。	4.5時間
第8回	対面	教員の研修	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。	4時間
第9回	対面	教職に求められる職務上、身分上の義務	事後：ノート、資料を整理し、まとめる。小テストの勉強をする。	4時間
第10回	対面	学校が抱える課題と教員の働き方改革	事後：文部科学省ウェブサイトの「学校における働き方改革～取組事例集～（令和2年2月）」を読んで、考察する。	4時間
第11回	対面	学校現場における教員の職務と役割	事後：学校現場における教員の職務、働き方について感想をまとめる。	4時間
第12回	対面	学校組織と校務分掌	事前：教員にはどのような仕事があるか書き出す。 事後：教員の役割としてどのようなものがあるか整理してまとめる。教職員間での連携の必要性について説明できるようにする。	4時間
第13回	対面	教員採用試験と求められる教員像	事後：関心のある自治体の教員採用試験について調べてまとめる。	4時間
第14回	対面	教師と専門家が連携したチーム的対応	事後：チーム学校における教員の役割、専門家との協働について考えをまとめる。 事前：学校、子どもが抱える問題としてどのようなものがあるか調べる。	4.5時間
第15回	オンデマンド	学び続ける教員と教員育成指標	事後：「大阪府教員等育成指標」（OSAKA教職スタンダード）をもとに、現在の自分自身を評価する。	4時間

科目名	教育行政学	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	平阪 美穂	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	戦後日本の教育行政－教育の諸制度とその運営－		
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。さらにより視野を広げ、今日の学校、子ども達やその家庭がおかれている社会的な状況を理解し、子どものウェルビーイング（全体的な幸せ）を改善するのに必要な取り組み＝学校や地域で子どもとその家庭を総合的に切れ目なく支援する学校や地域の在り方、そのための教育、福祉、経済政策・制度について学び、考え、展望する。その際、学校安全についても理解を深める。そしてそこにおける自らの教師としての役割についても自覚する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	1) 現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2) 学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3) 学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全（危機管理を含む）の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0 Crossmedia Edition, 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕子 (編), 昭和堂, 2023 年	ISBN	9.7848122223e+12
参考書	授業内で適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業への出席を原則とします。 授業内でのディスカッションには積極的に参加してください。 授業では、講義内容をまとめながらノートを取ってください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式			学修時間
第1回	対面	教育行政とは	事前：本授業の到達目標に基づいて、自分なりの目標を設定する。 事後：自分がこれまでどのような教育を受けてきたのかをまとめる。	4時間
第2回	対面	公教育と我が国の学校体系	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 公教育の意義や我が国の学校体系の特徴について説明できるようにする。	4時間
第3回	対面	日本国憲法と教育	事前：教育に関する法規としてどのようなものがあるか調べてくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第4回	対面	日本国憲法と教育基本法	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。憲法26条を暗唱し、その意味について説明できるようにする。	4時間
第5回	対面	教育の機会均等と義務教育	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第6回	対面	教育を受ける権利と就学義務	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	4時間
第7回	対面	学校教育	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第8回	対面	教育機会の確保のための多様な学び	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	4時間
第9回	対面	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 文部科学省のホームページを閲覧し、どのような役割を持っているのか確認する。 学校教育における文部科学省の役割についてまとめる。	4時間
第10回	対面	地方教育行政の制度理念とシステム	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。関心のある特定の自治体（都道府県/市町村）の総合教育会議・教育大綱について調べてまとめる。	4時間
第11回	対面	学校・家庭・地域の連携	事前：学校・家庭・地域の連携が求められた社会情勢について調べる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第12回	対面	チーム学校からチーム地域へ	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 関心のある自治体・学校において、「地域とともにある学校づくり」のためにどのような取り組みが行われているのか調べる。	4時間
第13回	対面	家庭教育とその支援の必要性	事前：子どもの貧困の実態を調べてくる。 事後：子どもの貧困の対策のため、自分たちにどのようなことができるか考える。	4時間
第14回	対面	学校安全の実際と課題	事前：学校保健安全法に目を通してくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 学校の危機管理に関するニュース（新聞記事等）を探し、そこで取られた対応と問題点についてまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	事後：ノート、資料を見直し、これまでの学びを振り返る。	4時間



科目名	教育行政学	開講年度	2024 年度春学期
担当者	平阪 美穂	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	戦後日本の教育行政－教育の諸制度とその運営－		
授業の目的及び概要	現代日本の公教育制度と教育法規、教育行政に関わる諸論点、諸問題などについて学びながら、公教育制度運営のシステムについて理解を深める。さらにより視野を広げ、今日の学校、子ども達やその家庭がおかれている社会的な状況を理解し、子どものウェルビーイング（全体的な幸せ）を改善するのに必要な取り組み＝学校や地域で子どもとその家庭を総合的に切れ目なく支援する学校や地域の在り方、そのための教育、福祉、経済政策・制度について学び、考え、展望する。その際、学校安全についても理解を深める。そしてそこにおける自らの教師としての役割についても自覚する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	1) 現代日本の公教育の制度とその運営としての行政及び教育法制に関わる基礎的知識を身につけるとともに、その過程で、現代公教育制度の持つ意義やその制度原理、構造についての理解を深める。 2) 学校を核とした地域の創生と地域の子どもの育成に向かう動向を踏まえて、学校と地域が連携する意義や地域との協働の在り方について、具体的に事例を通して理解する。 3) 学校管理下で生じる事件、事故及び災害の実情から学びつつ、学校保健安全法に規定された学校安全（危機管理を含む）の目的・目標と具体的な方策について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0 Crossmedia Edition, 高見 茂 開沼 太郎 宮村 裕 子（編）, 昭和堂, 2023 年	ISBN	9. 7848122223e+12
参考書	授業内で適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業への出席を原則とします。 授業内でのディスカッションには積極的に参加してください。 授業では、講義内容をまとめながらノートを取ってください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式			学修時間
第1回	対面	教育行政とは	事前：本授業の到達目標に基づいて、自分なりの目標を設定する。 事後：自分がこれまでどのような教育を受けてきたのかをまとめる。	4時間
第2回	対面	公教育と我が国の学校体系	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 公教育の意義や我が国の学校体系の特徴について説明できるようにする。	4時間
第3回	対面	日本国憲法と教育	事前：教育に関する法規としてどのようなものがあるか調べてくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第4回	対面	日本国憲法と教育基本法	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。憲法26条を暗唱し、その意味について説明できるようにする。	4時間
第5回	対面	教育の機会均等と義務教育	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第6回	対面	教育を受ける権利と就学義務	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	4時間
第7回	対面	学校教育	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第8回	対面	教育機会の確保のための多様な学び	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習	4時間
第9回	対面	中央と地方の教育行政機関と関連法規	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 文部科学省のホームページを閲覧し、どのような役割を持っているのか確認する。 学校教育における文部科学省の役割についてまとめる。	4時間
第10回	対面	地方教育行政の制度理念とシステム	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。関心のある特定の自治体（都道府県/市町村）の総合教育会議・教育大綱について調べてまとめる。	4時間
第11回	対面	学校・家庭・地域の連携	事前：学校・家庭・地域の連携が求められた社会情勢について調べる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。	4時間
第12回	対面	チーム学校からチーム地域へ	事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 関心のある自治体・学校において、「地域とともにある学校づくり」のためにどのような取り組みが行われているのか調べる。	4時間
第13回	対面	家庭教育とその支援の必要性	事前：子どもの貧困の実態を調べてくる。 事後：子どもの貧困の対策のため、自分たちにどのようなことができるか考える。	4時間
第14回	対面	学校安全の実際と課題	事前：学校保健安全法に目を通してくる。 事後：ノートを見返して要点をまとめる。補足プリントの学習。 学校の危機管理に関するニュース（新聞記事等）を探し、そこで取られた対応と問題点についてまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	事後：ノート、資料を見直し、これまでの学びを振り返る。	4時間

科目名	学校教育心理学	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	上松 幸一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成		
授業の目的及び概要	<p>教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 記憶や学習など認知に関わる心理学的知識。</li> <li>2) 教授の方法やプロセス、および学習評価といった学習に関わる心理過程。</li> <li>3) 運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性。</li> <li>4) 生徒の特性についての理解を深めるための、パーソナリティ心理学的内容。</li> <li>5) 学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりに関する社会心理学的内容。</li> <li>6) 生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学的内容。</li> </ol>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 様々な学習の形態や概念およびその過程を理解し、学習の過程の特性に応じた教育指導のための知識や考え方を理解する。</li> <li>2) 主体的学習を支える動機付け、集団づくり、学習評価のあり方およびその発達の特徴と関連を知る。</li> <li>3) 生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動および環境への適応を援助する理論について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適時講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭専修免許状、臨床心理士、公認心理師の資格を有し、児童相談所において、心理判定員及び児童福祉司の経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	講義毎に事前に LearningPortal にアップします。必ずプリントアウトし、講義に持参してください。	ISBN	なし
参考書	田爪宏二編著、よくわかる教職エクササイズ 教育心理学、ミネルヴァ書房、2018 年 文部科学省、生徒指導提要（改訂版）、2022 年 文部科学省、小学校学習指導要領、2017 年 文部科学省、中学校学習指導要領 2018 年 その他、必要に応じて講義資料にて紹介します。	ISBN	ISBN978-4-623-08177-6/C3337
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容	定期試験はレポート試験です。事前に課題情報が提供されますので、授業開催期間内に提出し		

		てください。
この科目の受講にあたって	問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。 分からないことがあった時は、必ず、質問してください。 小テスト、パワーポイントを利用したプレゼンテーションの実施など検討しています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	<オリエンテーション、および教育心理学の歴史①> シラバス説明・教育目標の伝達、および教育心理学の歴史について解説	シラバスを確認しておいてください。 LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4時間
第2回	対面	<教育心理学の歴史②、および心身の発達・基礎的な理論> 教育心理学の歴史について解説を行い、また発達理論の中心的なものを解説	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第3回	対面	<乳幼児期の発達、および児童期・青年期の発達> 乳幼児期、および児童期・青年期に絞って人の発達を解説。現代社会における課題などについても触れていく	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第4回	対面	<成人期・老年期の発達、および学習のメカニズムについて> 成人期・老年期に絞って人の発達を解説。また学習のメカニズムにおける学習と知識獲得に関する解説を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第5回	対面	<学習のメカニズム 認知と記憶、および動機づけと学習> 学習のメカニズムについて解説。特に認知・記憶、そして動機づけと学習の関係性について説明。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第6回	対面	<学習メカニズムの応用と子供を取り巻く社会と環境> これまでの学習理論を整理するとともに、理論が医療や福祉の心理臨床の現場でどのように使われているのかを紹介 また子どもたちがどのような社会環境の中で育ち、教育がどのような役割を担っているのかを考える。 プレゼンテーションのための準備・議題に関する意見などをグループでまとめ、整理をする準備についての説明	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第7回	対面	<教育心理学と教育実践①：認知発達・学級集団と学習支援> クラス集団の中における課題を抱えた子ども発達検査の架空事例を用い、その結果と学習支援について考え、履修者で議論を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第8回	対面	<教育心理学と教育実践② 個性や個人差を考えた学習支援> 知能に関する解説を行う。その上で、個人差とは何かについて履修生とともに考えるとともに、個人差や個性の違いに配慮した学習支援について、具体的な事例をもとに解説を行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第9回	対面	<教育心理学と教育実践③ 教育評価> 教育の評価方法について解説を行うと	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4時間

		もに、子どもの性格や情緒傾向の評価と教育への運用を考える	講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	
第10回	対面	<特別な支援と教育心理学①:障害の基本的理解と福祉サービス> 障害とは何かを概観し、学生と一緒に考える時間をもつ。また障害児の支援に関するサービスについて解説を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第11回	対面	<特別な支援と教育心理学②:困難さを抱える子どもへの教育的支援 (ADHDとASD)> 特別支援教育の支援対象である「ADHD」と「ASD」に関して解説を行い、その支援についてディスカッションを行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第12回	対面	<特別な支援と教育心理学③ 困難さを抱える子どもへの教育的支援 (精神障害と情緒的課題)> 特別支援教育の支援対象である「精神疾患」に関して解説を行う。また愛着障害のような情緒的問題について現場の実際を解説。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第13回	対面	<学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学① (学級崩壊・モンスターペアレント。非行など)> 学校現場で問題となっている学級崩壊、モンスターペアレント、引きこもり、非行行動などについて解説、および履修生とディスカッションを行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第14回	対面	<学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学② (児童虐待と他機関連携)> 学校現場で問題となっている児童虐待、および他機関連携について解説、および履修生とディスカッションを行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第15回	オンデマンド	<生徒の心に関わる専門的技術 : カウンセリングと心理療法について学ぶ (心理療法の技術)> 現場で実際に使われている心理療法についての解説を行うとともに、カウンセリングの基本的な考え方を伝達する。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間

科目名	学校教育心理学	開講年度	2024 年度春学期
担当者	上松 幸一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	幼児、児童及び生徒の発達と学習に関する知識及びその心理的特性を踏まえた教育指導の基盤形成		
授業の目的及び概要	<p>教育に関する、以下の心理学的知見を取り扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 記憶や学習など認知に関わる心理学的知識。</li> <li>2) 教授の方法やプロセス、および学習評価といった学習に関わる心理過程。</li> <li>3) 運動、言語、認知、社会性といった人間の成長発達の理解とその特性。</li> <li>4) 生徒の特性についての理解を深めるための、パーソナリティ心理学的内容。</li> <li>5) 学級経営など集団における人間関係、教師・生徒相互のかかわりに関する社会心理学的内容。</li> <li>6) 生徒の心の悩みやカウンセリング、特別支援について臨床心理学的内容。</li> </ol>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 様々な学習の形態や概念およびその過程を理解し、学習の過程の特性に応じた教育指導のための知識や考え方を理解する。</li> <li>2) 主体的学習を支える動機付け、集団づくり、学習評価のあり方およびその発達の特徴と関連を知る。</li> <li>3) 生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動および環境への適応を援助する理論について理解を深め、個に応じた適切な人間関係形成力をつける。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適時講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭専修免許状、臨床心理士、公認心理師の資格を有し、児童相談所において、心理判定員及び児童福祉司の経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	講義毎に事前に LearningPortal にアップします。必ずプリントアウトし、講義に持参してください。	ISBN	なし
参考書	田爪宏二編著、よくわかる教職エクササイズ 教育心理学、ミネルヴァ書房、2018 年 文部科学省、生徒指導提要（改訂版）、2022 年 文部科学省、小学校学習指導要領、2017 年 文部科学省、中学校学習指導要領 2018 年 その他、必要に応じて講義資料にて紹介します。	ISBN	ISBN978-4-623-08177-6/C3337
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容	定期試験はレポート試験です。事前に課題情報が提供されますので、授業開催期間内に提出し		

		てください。
この科目の受講にあたって	問題意識を持って、主体的に授業に臨んでください。 分からないことがあった時は、必ず、質問してください。 小テスト、パワーポイントを利用したプレゼンテーションの実施など検討しています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	<オリエンテーション、および教育心理学の歴史①> シラバス説明・教育目標の伝達、および教育心理学の歴史について解説	シラバスを確認しておいてください。 LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4時間
第2回	対面	<教育心理学の歴史②、および心身の発達・基礎的な理論> 教育心理学の歴史について解説を行い、また発達理論の中心的なものを解説	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第3回	対面	<乳幼児期の発達、および児童期・青年期の発達> 乳幼児期、および児童期・青年期に絞って人の発達を解説。現代社会における課題などについても触れていく	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第4回	対面	<成人期・老年期の発達、および学習のメカニズムについて> 成人期・老年期に絞って人の発達を解説。また学習のメカニズムにおける学習と知識獲得に関する解説を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第5回	対面	<学習のメカニズム 認知と記憶、および動機づけと学習> 学習のメカニズムについて解説。特に認知・記憶、そして動機づけと学習の関係性について説明。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第6回	対面	<学習メカニズムの応用と子供を取り巻く社会と環境> これまでの学習理論を整理するとともに、理論が医療や福祉の心理臨床の現場でどのように使われているのかを紹介 また子どもたちがどのような社会環境の中で育ち、教育がどのような役割を担っているのかを考える。 プレゼンテーションのための準備・議題に関する意見などをグループでまとめ、整理をする準備についての説明	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 授業後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間
第7回	対面	<教育心理学と教育実践①：認知発達・学級集団と学習支援> クラス集団の中における課題を抱えた子ども発達検査の架空事例を用い、その結果と学習支援について考え、履修者で議論を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第8回	対面	<教育心理学と教育実践② 個性や個人差を考えた学習支援> 知能に関する解説を行う。その上で、個人差とは何かについて履修生とともに考えるとともに、個人差や個性の違いに配慮した学習支援について、具体的な事例をもとに解説を行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第9回	対面	<教育心理学と教育実践③ 教育評価> 教育の評価方法について解説を行うと	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。	4時間

		もに、子どもの性格や情緒傾向の評価と教育への運用を考える	講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	
第10回	対面	<特別な支援と教育心理学①:障害の基本的理解と福祉サービス> 障害とは何かを概観し、学生と一緒に考える時間をもつ。また障害児の支援に関するサービスについて解説を行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第11回	対面	<特別な支援と教育心理学②:困難さを抱える子どもへの教育的支援 (ADHDとASD)> 特別支援教育の支援対象である「ADHD」と「ASD」に関して解説を行い、その支援についてディスカッションを行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第12回	対面	<特別な支援と教育心理学③ 困難さを抱える子どもへの教育的支援 (精神障害と情緒的課題)> 特別支援教育の支援対象である「精神疾患」に関して解説を行う。また愛着障害のような情緒的問題について現場の実際を解説。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第13回	対面	<学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学① (学級崩壊・モンスターペアレント。非行など)> 学校現場で問題となっている学級崩壊、モンスターペアレント、引きこもり、非行行動などについて解説、および履修生とディスカッションを行う。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめ復習してください。	4時間
第14回	対面	<学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学② (児童虐待と他機関連携)> 学校現場で問題となっている児童虐待、および他機関連携について解説、および履修生とディスカッションを行う	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。 得た知識やスキルを日常生活の中で応用してください。	4時間
第15回	オンデマンド	<生徒の心に関わる専門的技術 : カウンセリングと心理療法について学ぶ (心理療法の技術)> 現場で実際に使われている心理療法についての解説を行うとともに、カウンセリングの基本的な考え方を伝達する。	LearningPortal から資料をプリントアウトし、内容について把握しておいてください。 講義後は、しっかりとノートまとめをして復習してください。	4時間



科目名	教育課程論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	有間 梨絵	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育課程の理論及びカリキュラム・マネジメントの機能について学び、理解を深める		
授業の目的及び概要	<p>・本授業では、教育課程が果たす役割や機能、意義について概説し、学習指導要領を踏まえて教育課程の基本的な構造について理解を図る。また、学校における教育課程編成の方法やカリキュラム・マネジメント、学習評価について理解を深めることを目的とする。</p> <p>・具体的には、教育課程に関する基礎知識や編成の方法などについて、他者との意見交換やプレゼンテーションなど、様々な方法を活用して学ぶ授業内容となっている。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>ここでは、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>①学習指導要領に関する知識の修得と理解を深めるとともに、教育課程が果たす役割や機能、意義を理解する。</p> <p>②教育課程編成の基本原則と、実際的な教育課程編成方法について理解する。</p> <p>③教育課程と、実際の授業や学習の評価との関わりについて学び、教科・領域・学年をまたいで教育課程全体のマネジメントにつなげることの意義を理解する。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>1. 振り返りシート(またはアンケートフォーム)に対して教員がコメントを付して返却する。</p> <p>2. 学生が提出した課題(レポート、プレゼン資料など)について、教員がコメントを付して返却する。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論, 古川 治・矢野裕俊 編, 北大路書房, 2019 年 ※このテキストは、授業内及びレポート作成の際に使用するので、早めに購入すること。	ISBN	9. 7847628306e+12
参考書	①中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編, 文部科学省, 東山書房, 2020 年 ②高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総則編, 文部科学省, 東洋館出版社, 2019 年	ISBN	①9784827815801 ②9784491036397
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		20
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	<p>・本授業では、PBL や他者との意見交換、プレゼンテーションなどを通じて、教職を目指す学生が教育課程に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。</p> <p>・授業における疑問や考察を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。</p>		

・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・教育課程の概念 ▷ 教育課程とは何か(オリエンテーション、授業の進め方や評価など)について学ぶ。	事前学修：シラバスの内容をよく読んでくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートやデータに整理しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	・教育課程の構成要素とその意義 ▷ 教育課程の基準や学習指導要領に関する基本的事項を学び、教育課程における今日的意義について理解を深める。	事前学修：第1回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	・学校経営とカリキュラムマネジメント ▷ 教育課程を編成するのは誰か、編成の方法・手順や教育目標などについて、学校組織と関連づけて学ぶ。	事前学修：第2回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	・教師によるカリキュラムづくり ▷ 教育課程編成の意義とそれに関わる諸課題について基本的事項を学び、理解を深める。	事前学修：第3回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	・各学校段階による教育課程(1)教育課程調べ ▷ 学校教育における教育課程の特徴と仕組みを学ぶ	事前学修：第4回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第6回	オンデマンド	・各学校段階による教育課程(2)教育課程の検討 ▷ 教育課程の違いを比較して各学校・地域の特徴やカリキュラムマネジメントについて理解する。	事前学修：第5回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	・特別支援教育と幼児教育における教育課程 ▷ 国内外における特別支援教育と幼児教育の教育課程の特色を学ぶ。	事前学修：第6回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	・カリキュラム史と思想、現代の動向 ▷ 学校教育における教育課程の変遷やその基盤となる思想について、現代の動向とともに学ぶ。	事前学修：第7回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	・日本の学習指導要領の変遷 ▷ 学習指導要領と教育課程の編成について、基本的な考え方やそれぞれの特色について学ぶ。	事前学修：第8回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。 事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存	4時間

			などを適宜行っておくこと。	
第10回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隠れたカリキュラム <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ カリキュラムの特徴の一つとして「隠れたカリキュラム」という概念から理解を深める。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第9回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第11回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの多様性と学校での学びの経験 <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 学校教育における諸活動について具体的な子どもたちの姿と彼らが経験する学びの意味から理解を深める。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第10回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第12回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と子どもたちによってつくられる単元学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 教育課程における単元学習について教師と児童生徒の具体的な実践から理解を深める。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第11回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第13回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の教育課程「安全教育」の年間計画作成(1)学校目標・育てたい生徒像・学習のねらいの検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 中学校の教育課程を作成することを試みて、カリキュラムに関わる諸要素との関連を学ぶ。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第12回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とプレゼンテーションで指摘されたことを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第14回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の教育課程「安全教育」の年間計画作成(2)教科・教科外における年間計画の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 中学校の教育課程を作成することを試みて、カリキュラムに関わる諸要素との関連を学ぶ。また他者の作成した年間計画との比較を通して、その多様性を理解する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第13回授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第15回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業総括（オンデマンド授業） <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 教育課程の特質や内容について既習事項の整理、総括を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：授業で学んだ基本的事項や専門用語について、テキストの該当箇所や配布プリントを確認しておくこと。</p> <p>事後学修：これまで授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間

科目名	道徳理論と指導法	開講年度	2024 年度春学期
担当者	横山 愛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	道徳教育及び道徳科における指導計画の作成方法と指導法の基礎を学び、授業実践力を養う。		
授業の目的及び概要	<p>・道徳の意義や原理をベースに道徳教育や道徳科の目標、内容を理解するとともに、現代社会における道徳教育の課題を考察しながら基本的知識、指導スキルを身につけることを目的とする。</p> <p>・道徳科における様々な教材、指導法、評価法などを学び、学校現場で実践的な指導ができるようグループワークや模擬授業などを積極的に取り入れていた授業内容になっている。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>この科目においては、以下の 4 点を到達目標とする。</p> <p>①道徳教育における変遷や現代的な課題を踏まえ、道徳科における目標や内容を理解する。</p> <p>②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解し、学習指導計画、指導案の作成ができる。</p> <p>③生徒の発達段階や個別の学習状況を踏まえながら、学習評価を行うことができる。</p> <p>④模擬授業の実施とその振り返りを通して、教材研究、授業改善の視点を身につける。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>1. 毎時の授業内で提出する振り返り(または感想)シートに対して教員がコメントを付して返却する。</p> <p>2. 学生が提出した課題(レポート、指導案、教材など)について、教員がコメントを付して返却する。</p> <p>3. 模擬授業では、教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳, 文部科学省, 教育出版, 2017 年	ISBN	9. 7843163008e+12
参考書	<p>①「道徳科」評価の考え方・進め方, 永田繁雄編著, 教育開発研究所, 2017 年</p> <p>②中学校教育課程実践講座 特別の教科 道徳, 押谷由夫編著, ぎょうせい, 2017 年</p>	ISBN	<p>①9784865607215</p> <p>②9784324103272</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		20
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	<p>・本授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて、道徳教育や道徳科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。また、ここでは多面的・多角的な考えや意見が発言できる安心・安全な場(教室の雰囲気)づくりを目指すことを重視する。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で出された課題については、次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。</li> <li>・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。</li> </ul>
--	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の意義や原理               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 道徳教育における基本的事項の確認（オリエンテーション、授業の進め方や評価についての説明など）</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：本講義で指定されているテキストの pp. 134～143 を読んでおくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4 時間
第2回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心の成長と道徳性の発達               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 心理学・社会学からのアプローチによる理論学習</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第1回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4 時間
第3回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の道徳教育の歴史               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 「道徳の時間」の特設と「特別の教科 道徳」までの変遷</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第2回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4 時間
第4回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育及び道徳科の目標と学習内容についての理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 学習指導要領の内容についての学習</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第3回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4 時間
第5回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科における指導方法の理解①               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 道徳科の特性を生かした多様な指導方法の学習</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第4回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4 時間
第6回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科における指導方法の理解②               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 道徳科の特性を生かした多様な指導方法の学習</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第5回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4 時間
第7回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科における様々な教材についての理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 教材の活用や作成についての留意点</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第6回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4 時間
第8回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践①               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 読み物資料の活用とロールプレイング</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第7回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4 時間
第9回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳授業の組み立てと学習指導案の作成①</li> </ul>	<p>事前学修：第8回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できる</p>	4 時間

		<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 指導案の基本的な構成と指導過程の理解</li> </ul>	<p>ように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	
第10回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳授業の組み立てと学習指導案の作成②</li> <li>▷ 指導案作成の留意点と道徳科の特性を踏まえた学習評価についての理解</li> </ul>	<p>事前学修：第9回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第11回	オンデマンド	<p>道徳教育の指導計画と教育活動全体を通じた指導の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ PDCAを踏まえた指導計画についての学習</li> </ul>	<p>事前学修：第10回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第12回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業実践②</li> <li>▷ 学習指導案及び教材を使った模擬授業の実施</li> </ul>	<p>事前学修：これまで授業で取り上げた内容について復習を行い、模擬授業ができるように準備してくる。</p> <p>事後学修：模擬授業で指摘された事項について、ノートの整理、データ保存などを適宜行いながら復習をしておくこと。</p>	4時間
第13回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸外国における道徳教育の実際とグローバル社会への対応</li> <li>▷ アメリカ・イギリス・中国・韓国などの教育動向を中心に</li> </ul>	<p>事前学修：第12回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容を確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第14回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の総括</li> <li>▷ 授業で取り上げた内容を総復習し、振り返りを行う。道徳教育に関わる専門用語・基礎知識に関する内容について理解度(確認)テストを行う。</li> </ul>	<p>事前学修：これまでの授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第15回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育における重要事項の確認(オンデマンド授業)</li> <li>▷ 授業で取り上げた内容を総復習し、振り返りを行う。</li> </ul>	<p>事前学修：これまでの授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間

科目名	道徳理論と指導法	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	横山 愛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	道徳教育及び道徳科における指導計画の作成方法と指導法の基礎を学び、授業実践力を養う。		
授業の目的及び概要	<p>・道徳の意義や原理をベースに道徳教育や道徳科の目標、内容を理解するとともに、現代社会における道徳教育の課題を考察しながら基本的知識、指導スキルを身につけることを目的とする。</p> <p>・道徳科における様々な教材、指導法、評価法などを学び、学校現場で実践的な指導ができるようグループワークや模擬授業などを積極的に取り入れていた授業内容になっている。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>この科目においては、以下の 4 点を到達目標とする。</p> <p>①道徳教育における変遷や現代的な課題を踏まえ、道徳科における目標や内容を理解する。</p> <p>②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解し、学習指導計画、指導案の作成ができる。</p> <p>③生徒の発達段階や個別の学習状況を踏まえながら、学習評価を行うことができる。</p> <p>④模擬授業の実施とその振り返りを通して、教材研究、授業改善の視点を身につける。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>1. 毎時の授業内で提出する振り返り(または感想)シートに対して教員がコメントを付して返却する。</p> <p>2. 学生が提出した課題(レポート、指導案、教材など)について、教員がコメントを付して返却する。</p> <p>3. 模擬授業では、教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。</p>		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳, 文部科学省, 教育出版, 2017 年	ISBN	9. 7843163008e+12
参考書	<p>①「道徳科」評価の考え方・進め方, 永田繁雄編著, 教育開発研究所, 2017 年</p> <p>②中学校教育課程実践講座 特別の教科 道徳, 押谷由夫編著, ぎょうせい, 2017 年</p>	ISBN	<p>①9784865607215</p> <p>②9784324103272</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		20
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	<p>・本授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて、道徳教育や道徳科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。また、ここでは多面的・多角的な考えや意見が発言できる安心・安全な場(教室の雰囲気)づくりを目指すことを重視する。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で出された課題については、次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。</li> <li>・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。</li> </ul>
--	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の意義や原理               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 道徳教育における基本的事項の確認（オリエンテーション、授業の進め方や評価についての説明など）</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：本講義で指定されているテキストの pp. 134～143 を読んでおくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第2回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心の成長と道徳性の発達               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 心理学・社会学からのアプローチによる理論学習</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第1回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第3回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の道徳教育の歴史               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 「道徳の時間」の特設と「特別の教科 道徳」までの変遷</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第2回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第4回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育及び道徳科の目標と学習内容についての理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 学習指導要領の内容についての学習</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第3回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第5回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科における指導方法の理解①               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 道徳科の特性を生かした多様な指導方法の学習</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第4回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第6回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科における指導方法の理解②               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 道徳科の特性を生かした多様な指導方法の学習</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第5回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第7回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科における様々な教材についての理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 教材の活用や作成についての留意点</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第6回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第8回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践①               <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 読み物資料の活用とロールプレイング</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第7回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第9回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳授業の組み立てと学習指導案の作成①</li> </ul>	<p>事前学修：第8回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できる</p>	4時間



		<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 指導案の基本的な構成と指導過程の理解</li> </ul>	<p>ように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	
第10回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳授業の組み立てと学習指導案の作成②</li> <li>▷ 指導案作成の留意点と道徳科の特性を踏まえた学習評価についての理解</li> </ul>	<p>事前学修：第9回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第11回	オンデマンド	<p>道徳教育の指導計画と教育活動全体を通じた指導の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ PDCAを踏まえた指導計画についての学習</li> </ul>	<p>事前学修：第10回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第12回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業実践②</li> <li>▷ 学習指導案及び教材を使った模擬授業の実施</li> </ul>	<p>事前学修：これまで授業で取り上げた内容について復習を行い、模擬授業ができるように準備してくる。</p> <p>事後学修：模擬授業で指摘された事項について、ノートの整理、データ保存などを適宜行いながら復習をしておくこと。</p>	4時間
第13回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸外国における道徳教育の実際とグローバル社会への対応</li> <li>▷ アメリカ・イギリス・中国・韓国などの教育動向を中心に</li> </ul>	<p>事前学修：第12回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容を確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第14回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の総括</li> <li>▷ 授業で取り上げた内容を総復習し、振り返りを行う。道徳教育に関わる専門用語・基礎知識に関する内容について理解度(確認)テストを行う。</li> </ul>	<p>事前学修：これまでの授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくる。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第15回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育における重要事項の確認(オンデマンド授業)</li> <li>▷ 授業で取り上げた内容を総復習し、振り返りを行う。</li> </ul>	<p>事前学修：これまでの授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間

科目名	総合的な学習の時間の指導法	開講年度	2024 年度春学期
担当者	平阪 美穂	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	総合的な学習(探究)の時間の教育的意義を理解した上で、指導に必要な基礎的実践力を身につける。		
授業の目的及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業では、総合的な学習(探究)の時間の意義、各学校において目標及び内容を定める際や指導計画を作成する際の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につけることを主な目的とする。</li> <li>・具体的には、総合的な学習(探究)の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を踏まえ、授業計画の立案、模擬授業を行うことによって授業実践力を身につける内容になっている。</li> </ul>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>ここでは、以下の4点を到達目標とする。</p> <p>①学習指導要領における総合的な学習(探究)の時間の目標、並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。</p> <p>②各教科との関連性を図りながら、総合的な学習(探究)の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。</p> <p>③主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習(探究)の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解し、授業を行うことができる。</p> <p>④総合的な学習(探究)の時間における生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 振り返りシート(またはアンケートフォーム)に対して教員がコメントを付して返却する。</li> <li>2. 学生が提出した課題(レポート、指導案、教材など)について、教員がコメントを付して返却する。</li> <li>3. 模擬授業や体験活動では、教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート、討議 / グループワーク / プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>①中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編, 文部科学省, 東山書房, 2018年</li> <li>②高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編, 文部科学省, 学校図書, 2019年</li> </ol> <p>※自分の希望校種(中学校/高等学校)に応じてどちらかのテキストを揃える。教育実習などでも必要になるため授業開始時までに購入しておくこと。</p>	ISBN	<ol style="list-style-type: none"> <li>①9784827815610</li> <li>②9784762505362</li> </ol>
参考書	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 東洋館出版社, 2020年	ISBN	9.7844910414e+12
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表(口頭・実技)		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		20
	【定期試験】筆記試験(対面)		0

	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>・近年、総合的な学習の時間(中学校)や総合的な探究の時間(高等学校)を中核として、探究学習や問題(課題)解決型学習の重要性が急激に高まっている。本授業では、こうした社会や学校教育のニーズに合わせ、教員として総合的な学習(探究)の時間の授業及びそれに関連する学習活動での指導ができるよう、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。</p> <p>・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。</p> <p>・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	<p>・総合的な学習(探究)の時間を学ぶにあたって(授業オリエンテーション)</p> <p>▷ 総合的な学習(探究)の時間とは何かについて概要を説明し、授業の進め方や評価についての説明を行う。</p>	<p>事前学修：シラバスの内容をよく読んでくること。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第2回	対面	<p>・総合的な学習(探究)の時間の意義及び役割についての理解①</p> <p>▷ 教科横断的な資質・能力の育成について学ぶ。</p> <p>▷ 総合的な学習の時間(中学)と総合的な探究の時間(高校)に関する特質について、基本的な違いや共通点を整理する。</p>	<p>事前学修：第1回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第3回	対面	<p>・総合的な学習(探究)の時間の意義及び役割についての理解②</p> <p>▷ 探究学習における基本的な学習構造についての説明を聞き、マイプロジェクトの作成を行う。</p>	<p>事前学修：第2回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第4回	対面	<p>・総合的な学習(探究)の時間の目標及び主な内容についての理解</p> <p>▷ 総合的な学習(探究)の時間を通じて、それぞれ何を学び、何を身につけることが目指されているのかについて理解する。</p>	<p>事前学修：第3回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第5回	対面	<p>・総合的な学習(探究)の時間における年間指導計画の作成と実践事例①</p> <p>▷ 年間指導計画に関わる基本的事項及び作成方法について学び、実践事例と照らし合わせながら理解を深める。</p>	<p>事前学修：第4回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第6回	対面	<p>・総合的な学習(探究)の時間における年間指導計画の作成と実践事例②</p> <p>▷ マイプロジェクトを年間指導計画に位置づけ、どのような指導を継続的に行う必要があるのかについて学ぶ。</p>	<p>事前学修：第5回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備してくること。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第7回	対面	<p>・授業実践①</p> <p>▷ 学習内容の中間総括および授業実践を行う。</p>	<p>事前学修：総合的な学習(探究)の時間の特質や内容などを、配布資料や指定されたテキストの該当箇所をみて整理しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当</p>	4時間

			箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。	
第8回	対面	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習(探究)の時間の授業計画と学習活動の工夫①(各教科や道徳科、特別活動との関連) <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科や道徳科、特別活動との関連を意識しながら授業内容を構想する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第7回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第9回	対面	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習(探究)の時間の授業計画と学習活動の工夫②(様々な学習方法、授業形態についての理解) <ul style="list-style-type: none"> <li>探究学習に関連する様々な学習方法について理解し、単元計画や学習指導案の作成に活用する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第8回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第10回	対面	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習(探究)の時間における学習状況の評価と留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習(探究)の時間における様々な評価方法を学び、評価における留意点について理解する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第9回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第11回	対面	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習(探究)の時間における教材及び資料の活用①(協働的な学び、探究学習における調査や研究方法) <ul style="list-style-type: none"> <li>探究学習に関わる様々な教材や資料(データ活用を含む)について、その特徴を活かした学習方法や調査方法を学ぶ。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第10回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第12回	対面	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習(探究)の時間における教材及び資料の活用②(ICTを利活用した新しい学習内容と指導法) <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを利活用した授業実践について学び、ICT教材や資料を導入して授業内容を構想できるようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：第11回の授業で取り上げた内容について復習を行い、既習事項の確認問題などに回答できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第13回	対面	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習(探究)の時間を中核とした家庭及び地域社会との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>探究学習を通じて家庭や地域とどのように連携をとっていく必要があるのかについて、実践事例を基に具体的に学ぶ。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：これまで授業で取り上げた内容について復習を行い、探究学習の成果について報告できるように準備しておくこと。</p> <p>事後学修：授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間
第14回	対面	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業実践② <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの研究成果についての発表を行う。</li> <li>相互評価を行うことにより、探究学習の内容を深める。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：授業で学んだ基本的事項や専門用語について、テキストの該当箇所や配布プリントを確認しておくこと。</p> <p>事後学修：相互評価で指摘を受けたことやアドバイスについては、適宜メモを取るなどして、復習を行っておくこと。</p>	4時間
第15回	オンデマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の総括(オンデマンド授業) <ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学んできたことの要点整理・復習を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<p>事前学修：授業で学んだ基本的事項や専門用語について、テキストの該当箇所や配布プリントを確認しておくこと。</p> <p>事後学修：これまで授業で取り上げた内容とテキストの該当箇所との関わりを確認し、ノートの整理、データ保存などを適宜行っておくこと。</p>	4時間

科目名	特別活動論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	橋本 幸一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。		
授業の目的及び概要	学校教育の基本は、生徒の「自ら課題を見つけ、判断し、行動し、解決する力」と「他人を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする力」を育てることである。そこで、学校教育の一領域をなす特別活動について、その意義・目標から内容、指導の在り方や実際について理解する。その際、実践例も紹介するとともに、体験的な学修を通して理解を深め、受講生が身につけるべき基本的な知識、技能態度を修得する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1) 特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2) 教育課程における特別活動の位置づけや他領域との関係を理解し、その内容（学級活動、生徒会活動、学校行事など）の特質を理解する。 3) 特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。レポートや小テストは、評価をした上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業内でその都度指示する ※ 授業の配付資料は事前に授業支援システム「Learning Portal」にアップしておくので事前・事後学習に活用すること。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編、文部科学省、東山書房、2018 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 特別活動編、文部科学省、東京書籍、2019 年 ③生徒指導提要（令和 4 年 12）、文部科学省、東洋館出版社、2023 年	ISBN	①9784827815627 ②9784487286355 ③9784877302740
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	20	
	その他（%）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業内のグループワークやレポート（考察）などの提出が中心なので、授業に積極的に参加することが最重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	学校教育、教育課程の領域としての特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第2回	対面	特別活動の意義	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第3回	対面	教育課程における特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第4回	対面	特別活動の歴史 学習指導要領と特別活動の変遷	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第5回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ① 学級担任の役割	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第6回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ② 目標と内容	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第7回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ③ 学級づくりの実際	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第8回	対面	生徒会活動とクラブ活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	学校行事	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第10回	対面	教科・道徳・総合的な学習の時間との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第11回	対面	生徒指導・進路指導との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第12回	対面	家庭・地域・関係機関との連携	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第13回	対面	指導計画の作成と評価	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第14回	対面	実践上の危機管理	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	特別活動の意義・目標、内容、実際についての総括	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間

科目名	特別活動論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	橋本 幸一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	特別活動の意義や目標を理解し、指導の在り方について考える。		
授業の目的及び概要	学校教育の基本は、生徒の「自ら課題を見つけ、判断し、行動し、解決する力」と「他人を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする力」を育てることである。そこで、学校教育の一領域をなす特別活動について、その意義・目標から内容、指導の在り方や実際について理解する。その際、実践例も紹介するとともに、体験的な学修を通して理解を深め、受講生が身につけるべき基本的な知識、技能態度を修得する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	この科目においては、以下の3点を到達目標とする。 1) 特別活動の意義・目標・内容について理解する。 2) 教育課程における特別活動の位置づけや他領域との関係を理解し、その内容（学級活動、生徒会活動、学校行事など）の特質を理解する。 3) 特別活動の指導の在り方とその評価、改善について理解するとともに、集団における合意形成のための話し合いや、意思決定に向けた集団活動の在り方、さらに家庭、地域などとの関係の在り方を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。レポートや小テストは、評価をした上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業内でその都度指示する ※ 授業の配付資料は事前に授業支援システム「Learning Portal」にアップしておくので事前・事後学習に活用すること。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編、文部科学省、東山書房、2018 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 特別活動編、文部科学省、東京書籍、2019 年 ③生徒指導提要（令和 4 年 12）、文部科学省、東洋館出版社、2023 年	ISBN	①9784827815627 ②9784487286355 ③9784877302740
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	20	
	その他（%）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業内のグループワークやレポート（考察）などの提出が中心なので、授業に積極的に参加することが最重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	学校教育、教育課程の領域としての特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第2回	対面	特別活動の意義	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第3回	対面	教育課程における特別活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第4回	対面	特別活動の歴史 学習指導要領と特別活動の変遷	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第5回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ① 学級担任の役割	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第6回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ② 目標と内容	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第7回	対面	学級活動・ホームルーム活動 ③ 学級づくりの実際	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第8回	対面	生徒会活動とクラブ活動	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	学校行事	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第10回	対面	教科・道徳・総合的な学習の時間との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第11回	対面	生徒指導・進路指導との関連	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第12回	対面	家庭・地域・関係機関との連携	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第13回	対面	指導計画の作成と評価	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第14回	対面	実践上の危機管理	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	特別活動の意義・目標、内容、実際についての総括	授業後に、授業で配付した資料を読んでおくこと。	4時間



科目名	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	中村 哲也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究		
授業の目的及び概要	この科目では、教育科学の立場から提案された主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について、受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業づくりのあり方を検討する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子供たちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。</p> <p>この科目の到達目標は以下の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育方法や授業設計・評価に関する基本的な理論や方法を理解している。</li> <li>2) 教育方法（情報通信技術の活用を含む）に関する基礎的な事項や方法を理解している</li> <li>3) 指導案の作成や分析を通して実際の授業設計をすることができる。</li> <li>4) 情報通信技術を効果的に活用した指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各自が調べた内容を授業において発表する。その内容について学生の相互評価、および教員からのその都度評価を行う。 作成したレポートや指導案などは授業内で取り上げ、評価及び改善点を示します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」、大島 純 千代西尾 祐司、北大路書房、2019 年 *テキストの内容を各自がまとめて他のメンバーに伝えたり、全体で内容を共有してディスカッションするなどの際に使用します。テキストがないと学習がすすめられませんので、必ず購入してください。	ISBN	①9784762830808
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		5
	成果発表（口頭・実技）		10
	中間試験		80
	【定期試験】レポート試験		0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	【定期試験】WEB 試験	0
	その他（％）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	他の学生と協同で学ぶ機会が多くなる。欠席があると他のメンバーの学習に支障をきたす場合があるので、基本的には全授業の出席を求める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 社会の変化による現在の教育課題と教育方法	予習：今までの授業を振り返り、どのような教え方があり、どのような教え方が効果的だったかについて考えておく（120分） 復習：授業で紹介した教育方法について、今までの授業を振り返り、その関連性について考えておく（120分）	4時間
第2回	対面	教育方法の基礎的理論	予習：学習指導要領の解説をもとに学習指導要領改訂についての内容について理解する。（120分） 復習：それぞれが担当した学習内容項目について、文献等で調べる。（240分）	6時間
第3回	対面	主体的・対話的で深い学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第4回	対面	個別最適な学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第5回	対面	生徒の学びを促す授業のデザイン	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第6回	対面	教育の基礎的な技術、教材、教具、学習環境、情報通信技術	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第7回	対面	学習評価の理論	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第8回	対面	学習評価の方法、教育データを活用した指導	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第9回	対面	今日の情報通信技術を活用した教育の意義と課題	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第10回	対面	各教科を横断した情報活用能力と情報リテラシーの育成	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第11回	対面	学校における ICT 環境の整備と情報通信技術を活用した校務の推進	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第12回	対面	情報通信技術を活用した教育方法、特別の支援を必要とする生徒への活用	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第13回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想①（情報通信機器の活用）	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第14回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想②（指導事例等）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（120分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。	4時間

			(120分)	
第15回	オンデマンド	情報通信機器を活用した授業の構想③(指導案等作成)	予習：今までの学習を振り返り、自分なりの言葉で説明できるようにする(120分) 復習：教育方法に関する学習内容に関しての自分の学習に関して理解が不十分だった点などについてまとめる(120分)	4時間

科目名	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	開講年度	2024 年度春学期
担当者	北川 剛司	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究		
授業の目的及び概要	この科目では、教育科学の立場から提案されてきた主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について、受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業づくりのあり方を検討する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子供たちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。 この科目の到達目標は以下の4点である。 1) 教育方法や授業設計・評価に関する基本的な理論や方法を理解している。 2) 教育方法（情報通信技術の活用を含む）に関する基礎的な事項や方法を理解している 3) 指導案の作成や分析を通して実際の授業設計をすることができる。 4) 情報通信技術を効果的に活用した指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	主として各授業の前後の休み時間等を使って、授業への取り組みの様子や達成についてフィードバックを行う予定です。また、必要に応じて、授業中の提出物にコメント記入をし返却を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年告示）， 文部科学省，東山書房，2020 年	ISBN	①9784827815801
参考書	①佐藤学『教育の方法（放送大学叢書）』左右社、2010 年。 ②田中耕治編『よくわかる教育評価 第3版』ミネルヴァ、2021 年。	ISBN	①ISBN-10 : 4903500349 ②ISBN-10 : 4623091643
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		40
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（%）		0
その他の内容			
この科目の受講にあたって	教職を目指すみなさんは、「よい授業とはどんなものだろう」と考えたことがあると思います。本授業ではこの問いに受講後に各自が答えられるようになることを目指します。よい授業ができるようになると、子どもにとってよいというだけでなく、教師にとってもやりがいや自信に		

つながります。よい授業についての目指すべき方向をまずは理解することが大切です。よい授業についてのイメージを受講者全員で深めていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 社会の変化による現在の教育課題と教育方法 学力論争について理解し、何が問題として指摘されているのかを考える。そして学力を子ども達が身につけていくために何が可能かを教育方法から考える。また学校が社会の求めるものとのかわりでのどのように変遷してきたか、今何が求められているのかという現在の教育課題を理解する。	・ 事前に平成 29 年度告示 中学校学習指導要領解説（総則編）pp. 1-5 を読んでおくようにしてください。	2 時間
第2回	対面	教育方法の基礎的理論 教授学のキーワード（アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり）を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・ 第2回授業中に配布する資料「教授学のキーワード（アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり）」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第3回	対面	主体的・対話的で深い学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む） 「教育方法」に関するキーワード（授業規律、授業形態、協同学習、情報機器の活用、など）を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・ 第3回授業中に配布する資料「教育方法」に関するキーワード（授業規律、授業形態、協同学習、情報機器の活用、など）」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第4回	対面	個別最適な学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む） 意図的な教育的働きかけである「授業」をデザインする場合、全体および個別の目標設定が重要となる。目標は達成可能な目標なのか、方向を指し示す目標なのか、など、授業の目標設定をどのように考えていくのか、その手続きと方法を学ぶ。また目標の達成を確かめ、目標設定自体をいかに評価するのかについてもあわせて考える。指導案作成2（目標の作成）	・ 第4回授業中に配布する資料「個別最適な学び」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第5回	対面	生徒の学びを促す授業のデザイン 授業は、教授活動と学習活動が効果的に機能するときはその成果を生み出す。そのため、ここでは、学習活動を支援するための考え方を、先行する学習理論を通じて学ぶ。	・ 第4回授業中に配布する資料「学習理論」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	教育の基礎的な技術、教材、教具、学習環境、情報通信技術 授業は、子ども達の学習スタイルや認知スタイルによって多様な形態をもつ。子どもの学びに可能な限り即した柔軟な授業方法、教材、学習環境、情報機器活用について考える。	・ 第6回授業後に配布する資料「学習環境、情報通信技術」を必ず授業の後読んで予習をしてください。	4 時間
第7回	対面	学習評価の理論 子ども達の学びをどのように評価するのか？評価に関しての基礎を学び、相対評価、絶対評価、個人内評価それぞれの長所と短所を学ぶ。そしてその効果的な連携利用を考える。	・ 第7回授業中に配布する資料「相対評価、絶対評価、個人内評価」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間

第8回	対面	学習評価の方法、教育データを活用した指導	・第8回授業中に配布する資料「教育データを活用した指導」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第9回	対面	今日の情報通信技術を活用した教育の意義と課題に関する講義をオンライン動画で実施する。(オンライン動画形式であることを活用して、教育実践へのさまざまな情報通信技術の導入の仕方について紹介する。)	・第9回授業中に配布する資料「情報通信技術」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第10回	対面	各教科を横断した情報活用能力と情報リテラシーの育成	・第10回授業中に配布する資料「情報活用能力、情報リテラシー」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第11回	対面	学校における ICT 環境の整備と情報通信技術を活用した校務の推進	・第11回授業中に配布する資料「学校における ICT 環境の整備」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第12回	対面	情報通信技術を活用した教育方法、特別の支援を必要とする生徒への活用	・第12回授業中に配布する資料「情報通信技術と特別支援教育」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第13回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想①(情報通信機器の活用)	・第13回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用①」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第14回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想②(学習指導案の作成)	・第14回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用②」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第15回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想③(模擬授業の実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用③」を必ず授業の後読んで復習をしてください。</li> <li>・教育課程の近年の定義と指導案の対応について説明できるようにしてください。</li> <li>・教育評価の基本的な考え方としてのパフォーマンス評価、ルーブリックについて説明できるようにしてください。</li> <li>・情報通信機器の授業への活用について説明できるようにしてください。</li> </ul>	6時間

科目名	生徒指導・進路指導論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	市原 由美子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力		
授業の目的及び概要	<p>生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実践的な在り方について学習する。</p> <p>1) 今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、さらにそれらの問題点、課題について理解を深める。</p> <p>2) 上記1) の理解に基づいて、生徒指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。</p> <p>3) 懲戒・体罰など生徒指導の関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応について基本的な考え方を理解する。</p> <p>4) 思春期、青年期における進路選択・決定を、生き方、将来のキャリア形成について考える課題として認識を深め、教育実践につながる力を養う。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>1) 生徒指導、進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて、新しい「生徒指導提要」に基づいて理解する。</p> <p>2) 学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。</p> <p>3) 生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応の在り方を理解する。</p> <p>4) 生徒が自らの生きる道（＝進路）を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>①座して聞くだけの授業ではなく、受講生に発言、発表の機会を毎時間設ける。さらに受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。</p> <p>②各自の課題に対する意欲や成果を授業時に明らかにし、受講生全体の中で評価する。</p> <p>③共同作業や討議の内容を発表することで互いに成果を確認し、自分自身にフィードバックする。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業時に配布するプリント、新聞記事など	ISBN	定まったテキストは使用しない
参考書	新「生徒指導提要」（文部科学省）	ISBN	4491051755
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			

この科目の受講にあたって	世界全体に経済格差が広がり、子どもたちの人権が尊重されない現在、教育は非常に多くの課題を抱えている。そしてこれらの社会を縮小したような状態が学校現場である。しかし子どもたちに解決の力を養うところが学校でもある。教師自らがこの教育・社会・世界の現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが問われていると言える。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけてほしい。
--------------	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	生徒指導・進路指導の意義と原理	事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点をまとめ、授業で発表できるようにしておく。 事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方をまとめ、レポート提出の際に活かす。	4時間
第2回	対面	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導「校則」について考える	事前 今日の生徒の学校生活・くらしの状況、その意識などを知り気づいたことを書きとめる。 事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考え、意見をまとめる。	4時間
第3回	対面	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	事前 自身の学校生活を振り返り、生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考え、授業発表の準備をする。 事後 他の学生の発表を聞いて参考にし、生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方の実践的課題をまとめる。	4時間
第4回	対面	生徒の発達段階と課題 ①不登校、ひきこもりなど	事前 不登校・ひきこもりの現状、各生徒の思いや課題を事例を通して理解し、授業案を作成する。 事後 各授業案の発表を聞いて、不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を再度確認し、自らの授業案を修正する。	4時間
第5回	対面	生徒の発達段階と課題 ②発達障害など	事前 発達障害の実態を把握する。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考え、どのように関わっていくのか考えをまとめる。	4時間
第6回	対面	集団生活と生徒指導 ①いじめ問題	事前 いじめ問題の実態と背景を示した事例を読んでおく。 事後 授業で作成した自分の指導案の問題点を修正する。	4時間
第7回	対面	集団生活と生徒指導 ②学級づくり、学級のとりくみ	事前 事例を読んでおく。 事後 各学生が学級指導の課題と指導の問題点について発表した内容を振り返り、整理する。	4時間
第8回	対面	集団生活と生徒指導 ③学年、学校のとりくみ	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考え、授業で発表できるように準備をする。 事後 各学生の発表を聞いて、生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方についてまとめる。	4時間
第9回	対面	集団生活と生徒指導 ④部活動	事前 部活動の実態を紹介した新聞記事を読み、自分の意見を授業で言えるように準備する。 事後 授業発表を聞くとともに、国が現在示している部活動の指導の変更をよく理解し、自分で課題をまとめる。	4時間
第10回	対面	家庭の問題と生徒指導	事前 保護者・家庭と教職員の関係を紹介した事例をよく読んで、意見を言えるように準備する。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの大切さを認識し、実践的課題をまとめる。	4時間
第11回	対面	教職員・教職員集団の在り方と生徒指導	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・共同関係を示す事例を読んでおく。 事後 事例に対する各自の意見を聞いて、現場での	4時間



			教職員相互の共同関係づくりをどうすればよいか自分の意見をまとめる。	
第12回	対面	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、進路指導とは何かを発表できるように準備する。 事後 学校現場で本来の進路指導が行えるために、何を今しておかなければならないのかまとめる。	4時間
第13回	対面	進路を切り拓く学習(学力保障)のあり方	事前 キャリア教育とは何かを知り、人間にとっての学習・学力について考え発表できるように準備する。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認し、課題を明確にしてその指導に必要な力をどうつけるのかまとめる。	4時間
第14回	対面	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 キャリア教育・進路指導の実践事例を読む。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導の実態を知り、現場に出るまでに大学で何を学ばないといけないか課題をまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 全授業を通して、今日の学校における生徒指導・進路指導のあり方と実践的課題について発表の準備をする。 事後 各発表を聞いて、生徒指導・進路指導についての自分の気づきをまとめる。	4時間

科目名	生徒指導・進路指導論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	市原 由美子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	生徒の個性尊重と自立をめざす生徒指導・進路指導の研究・展開と教師の指導力		
授業の目的及び概要	<p>生徒指導・進路指導およびキャリア教育について、その意義や基本的な考え方、その実践的な在り方について学習する。</p> <p>1) 今日の中学生・高校生の学校内外の生活と学びの実態を知り、それらをどのように捉えるのか、さらにそれらの問題点、課題について理解を深める。</p> <p>2) 上記1) の理解に基づいて、生徒指導・進路指導のあり方、方法について理解し、考察する。</p> <p>3) 懲戒・体罰など生徒指導の関わる法令について理解するとともに、学級づくり、不登校、いじめ、暴力行為など生徒指導上の課題と対応について基本的な考え方を理解する。</p> <p>4) 思春期、青年期における進路選択・決定を、生き方、将来のキャリア形成について考える課題として認識を深め、教育実践につながる力を養う。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>1) 生徒指導、進路指導の意義や原理、教育課程上の位置づけについて、新しい「生徒指導提要」に基づいて理解する。</p> <p>2) 学級、学年などの集団指導や個別指導による生徒指導の進め方や進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。</p> <p>3) 生徒指導上の課題や教職員、学校外の専門家などとの連携を含めた対応の在り方を理解する。</p> <p>4) 生徒が自らの生きる道（＝進路）を切り開くための進路指導・キャリア教育の課題とそれに対する指導の考え方とあり方を理解する。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>①座して聞くだけの授業ではなく、受講生に発言、発表の機会を毎時間設ける。さらに受講生同士が相互評価や課題点を指摘しあう。</p> <p>②各自の課題に対する意欲や成果を授業時に明らかにし、受講生全体の中で評価する。</p> <p>③共同作業や討議の内容を発表することで互いに成果を確認し、自分自身にフィードバックする。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業時に配布するプリント、新聞記事など	ISBN	定まったテキストは使用しない
参考書	新「生徒指導提要」（文部科学省）	ISBN	4491051755
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			

この科目の受講にあたって	世界全体に経済格差が広がり、子どもたちの人権が尊重されない現在、教育は非常に多くの課題を抱えている。そしてこれらの社会を縮小したような状態が学校現場である。しかし子どもたちに解決の力を養うところが学校でもある。教師自らがこの教育・社会・世界の現在の問題と未来の課題にどう関わって生きていくかが問われていると言える。生徒指導・進路指導は教科指導とともに教育の原点であることから、指導論の学びを通して力をつけてほしい。
--------------	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	生徒指導・進路指導の意義と原理	事前 自分の受けてきた生徒指導・進路指導を振り返りその問題点をまとめ、授業で発表できるようにしておく。 事後 本来の生徒指導・進路指導とは何かを理解し、そのあり方をまとめ、レポート提出の際に活かす。	4時間
第2回	対面	生徒の生活実態・課題の把握と生徒指導「校則」について考える	事前 今日の生徒の学校生活・くらしの状況、その意識などを知り気づいたことを書きとめる。 事後 今日の生徒の状況の背景と学校・教職員の課題を考え、意見をまとめる。	4時間
第3回	対面	生徒の生活実態・課題のとらえ方と生徒指導のあり方、考え方	事前 自身の学校生活を振り返り、生徒への集団的な指導と個別指導の大切さを考え、授業発表の準備をする。 事後 他の学生の発表を聞いて参考にし、生徒指導における集団的指導と個別指導のあり方の実践的課題をまとめる。	4時間
第4回	対面	生徒の発達段階と課題 ①不登校、ひきこもりなど	事前 不登校・ひきこもりの現状、各生徒の思いや課題を事例を通して理解し、授業案を作成する。 事後 各授業案の発表を聞いて、不登校・ひきこもりの生徒への学校・教職員の対応のあり方を再度確認し、自らの授業案を修正する。	4時間
第5回	対面	生徒の発達段階と課題 ②発達障害など	事前 発達障害の実態を把握する。 事後 発達障害を理解し、教職員の実践的課題を考え、どのように関わっていくのか考えをまとめる。	4時間
第6回	対面	集団生活と生徒指導 ①いじめ問題	事前 いじめ問題の実態と背景を示した事例を読んでおく。 事後 授業で作成した自分の指導案の問題点を修正する。	4時間
第7回	対面	集団生活と生徒指導 ②学級づくり、学級のとりくみ	事前 事例を読んでおく。 事後 各学生が学級指導の課題と指導の問題点について発表した内容を振り返り、整理する。	4時間
第8回	対面	集団生活と生徒指導 ③学年、学校のとりくみ	事前 自身の生徒会活動・学校行事などを振り返りその問題点や課題を考え、授業で発表できるように準備をする。 事後 各学生の発表を聞いて、生徒会活動・学校行事の意義を理解しその指導のあり方についてまとめる。	4時間
第9回	対面	集団生活と生徒指導 ④部活動	事前 部活動の実態を紹介した新聞記事を読み、自分の意見を授業で言えるように準備する。 事後 授業発表を聞くとともに、国が現在示している部活動の指導の変更をよく理解し、自分で課題をまとめる。	4時間
第10回	対面	家庭の問題と生徒指導	事前 保護者・家庭と教職員の関係を紹介した事例をよく読んで、意見を言えるように準備する。 事後 学校現場での保護者との関係づくりの大切さを認識し、実践的課題をまとめる。	4時間
第11回	対面	教職員・教職員集団の在り方と生徒指導	事前 個々の教職員と学年・学校の教職員集団との連携・共同関係を示す事例を読んでおく。 事後 事例に対する各自の意見を聞いて、現場での	4時間

			教職員相互の共同関係づくりをどうすればよいか自分の意見をまとめる。	
第12回	対面	進路指導の概念と目標	事前 自分の受けてきた進路指導を振り返り、進路指導とは何かを発表できるように準備する。 事後 学校現場で本来の進路指導が行えるために、何を今しておかなければならないのかまとめる。	4時間
第13回	対面	進路を切り拓く学習(学力保障)のあり方	事前 キャリア教育とは何かを知り、人間にとっての学習・学力について考え発表できるように準備する。 事後 キャリア教育の本来のあり方を確認し、課題を明確にしてその指導に必要な力をどうつけるのかまとめる。	4時間
第14回	対面	キャリア教育と進路指導のあり方	事前 キャリア教育・進路指導の実践事例を読む。 事後 学校現場でのキャリア教育・進路指導の実態を知り、現場に出るまでに大学で何を学ばないといけないか課題をまとめる。	4時間
第15回	オンデマンド	生徒指導、進路指導、キャリア教育の総括	事前 全授業を通して、今日の学校における生徒指導・進路指導のあり方と実践的課題について発表の準備をする。 事後 各発表を聞いて、生徒指導・進路指導についての自分の気づきをまとめる。	4時間

科目名	教育相談論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	梅川 康治	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談		
授業の目的及び概要	<p>・この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。</p> <p>・教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。この観点を基本として、まず教育相談の教育現場で必要な課題意識や理論、方法について学習する。</p> <p>具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識（意義・理論・技法）などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>この科目における、学修の到達目標は以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。</li> <li>2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。</li> <li>3. 教育相談がしうるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。</li> <li>4. 教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。その内容に関して、次の授業時に、補足説明をし、守秘義務を守りつつ回答します。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。配布プリントを使用します。	ISBN	なし
参考書	参考書は、必要に応じて授業時に紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	受講者自身のコミュニケーションのスキルアップに役立ちます。また、教育関係の仕事だけでなく、広く社会の様々な分野に応用できる理論と実践を学べます。積極的に受講することで、「受講者自身の学校体験」を見つめ直し、対人援助に役立つ具体的な方法を知ることができます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	現状の教育の課題を解説する。不登校やいじめの問題、自死や不適応行動などに関する生徒の現状を解説する。「学校教育でのカウンセリングとは何か」を実践的な見地から解説する。	事前に、現状の教育課題は何かをインターネット等で調べる。自分なりの現状の教育課題についての考えを整理しておく。 授業後は、授業で学修した内容を復習しておく。	3時間
第2回	対面	心理学の基礎理論や概念について、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。カウンセリングと心理療法の違い、教育に使えるカウンセリングなど、具体的な活用例を紹介しながら解説する。傾聴のポイントを具体例を紹介しながら解説する。	事前に、教育相談について関連書物やインターネット等で調べる。自身のこれまでの学校での体験例などをもとに教育相談の重要性を考えておく。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第3回	対面	児童生徒の不適応行動に対する捉え方について、事例を通して解説する。教育相談における心の問題と不適応行動に関するこれまでの経緯と対応も含めて解説し、受講者の学習課題意識を促す。受講者は自己の価値観や視点を見つめ直す機会とする。	事前に、これまでの学校での自身の体験等をもとに、不登校や非行などの課題について考えておく。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第4回	対面	いじめについて、現状の問題点や課題について解説する。生徒の発達段階や課題に応じた具体的な対応策を紹介する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関との連携について紹介する。新聞やネットの記事などにも普段から注意しておく。	事前に、いじめについて関連書物やインターネット等で調べる。これまでの学校での自身の体験等をもとに、その課題について考えておく。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第5回	対面	教育相談における査定法としての心理検査の意義と役割について解説する。自己理解と他者理解について、心理検査等を活用して自身の傾向を知ること、自己と他者の理解を深める。	事前に、教育に関する心理検査にはどのようなものがあるか、インターネット等で調べる。また、その効果について考えておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第6回	対面	教育相談に有用な検査の技法と実際例を紹介し、心理検査の結果の利用法を解説する。学校現場における活用例も紹介する。	事前に、交流分析やエゴグラムについて、関連書物やインターネット等で調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第7回	対面	教育におけるカウンセリングについて、実際の場面での技法などを具体的に紹介する。また、仮想事例を基に教育相談の進め方を解説する。	事前に、教育におけるカウンセリングについて調べておくこと。これまでの体験をもとに、教育相談の有効性について考えておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第8回	対面	人間関係づくりに役立つワークや参考書の紹介をする。教育相談に必要な技法論（受容・傾聴・共感等）の具体的な進め方を事例を通して解説する。	事前に、配布予定資料に記載されている参考書等を時間があれば読んでおく。インターネット等でカウンセリングについてのポイントを調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。授業で紹介したワークや参考書等をできる限り読んで見ること。	3時間
第9回	対面	カウンセリングをするにあたり、簡潔に質問するなどの技法のポイントを紹介する。事例を通して教育相談における基礎的な技法や態度の理解を深める。	事前に、これまでの授業で紹介した書物や実践例を参考に、自身が相談を受けた場合の対応について、心配なことや気になることを考えておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第10回	対面	教育相談に必要な物理的・人的条件、教師間及び他の専門家（機関）との連携などについて解説する。チームとしての組織的な取り組みについて具体例を紹介し、解説する。	事前に、学校に関わる専門機関にはどのようなものがあるかをインターネット等で調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第11回	対面	保護者との教育相談について、事例を通して解説する。保護者の抱える悩みや役割、家族の抱える問題、保護者との相談のあり	事前に、保護者との教育相談とはどのようなものか、家族の抱える問題にどのようなものがあるかを、自身で考えるとともにインターネット等で調べてお	3時間

		方など、具体的な進め方を紹介し解説する。	く。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	
第12回	対面	発達や不登校などの課題を抱える生徒の保護者との相談の中で、陥りがちな問題点を紹介し、連携の方法を解説する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割等について解説する。	事前に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割りについてインターネット等で調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第13回	対面	いじめや虐待の事例を通して、教育相談における具体的な対応を紹介し、解説する。	事前に、いじめや虐待の実態をインターネット等で調べる。その対応について、自身の考えを整理しておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第14回	対面	生徒の心の問題や不適応行動などの解決の手段としてピア・サポート活動などのトレーニング内容や取り組みを紹介し、支援の方法を解説する。	事前に、ピア・サポートについて、書物やインターネット等からその概要と役割について予習しておくこと。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第15回	オンデマンド	本授業で学修したこれまでの内容を整理する。教育相談の意義と役割、教育相談に役立つ理論や方法、カウンセリングの基礎的知識や技法、教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性などを理解したかを確認する。	オンデマンドを視聴して、これまで学んだ内容について、自分なりの整理をする。試験に向けて、今後の自身の取り組みたい内容について考え整理しておく。	3時間

科目名	教育相談論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	梅川 康治	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	カウンセリングの知見を活かした教育相談		
授業の目的及び概要	<p>・この科目は、教員免許取得者としての必須の知識を習得するための授業である。</p> <p>・教育相談の基本は、生徒自身の自己理解と他者との適切な関係構築を支援することにある。この観点を基本として、まず教育相談の教育現場で必要な課題意識や理論、方法について学習する。</p> <p>具体的には、生徒の発達状況に応じた行動の理解やカウンセリングに関する基礎的知識（意義・理論・技法）などを学習し、さらにこれらの知識を持って教育相談の具体的な事例を取り上げつつ、学び、理解を深める。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>この科目における、学修の到達目標は以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における教育相談の意義・役割について理解している。</li> <li>2. 教育相談に関するさまざまな理論や方法について理解し、その概ねを説明できる。</li> <li>3. 教育相談がしうるカウンセリングの基礎的知識、技法について理解を深める。</li> <li>4. 教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性を理解している。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業終了時に、授業についての理解・質問・意見・感想を記述するミニレポートの課題提出があります。その内容に関して、次の授業時に、補足説明をし、守秘義務を守りつつ回答します。そのことにより、受講者個々の理解促進と受講者全員の共通理解を図ります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。配布プリントを使用します。	ISBN	なし
参考書	参考書は、必要に応じて授業時に紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	受講者自身のコミュニケーションのスキルアップに役立ちます。また、教育関係の仕事だけでなく、広く社会の様々な分野に応用できる理論と実践を学べます。積極的に受講することで、「受講者自身の学校体験」を見つめ直し、対人援助に役立つ具体的な方法を知ることができます。		



授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	現状の教育の課題を解説する。不登校やいじめの問題、自死や不適応行動などに関する生徒の現状を解説する。「学校教育でのカウンセリングとは何か」を実践的な見地から解説する。	事前に、現状の教育課題は何かをインターネット等で調べる。自分なりの現状の教育課題についての考えを整理しておく。 授業後は、授業で学修した内容を復習しておく。	3時間
第2回	対面	心理学の基礎理論や概念について、最新の知見を取り込みながら具体的な事例の紹介とともに解説する。カウンセリングと心理療法の違い、教育に使えるカウンセリングなど、具体的な活用例を紹介しながら解説する。傾聴のポイントを具体例を紹介しながら解説する。	事前に、教育相談について関連書物やインターネット等で調べる。自身のこれまでの学校での体験例などをもとに教育相談の重要性を考えておく。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第3回	対面	児童生徒の不適応行動に対する捉え方について、事例を通して解説する。教育相談における心の問題と不適応行動に関するこれまでの経緯と対応も含めて解説し、受講者の学習課題意識を促す。受講者は自己の価値観や視点を見つめ直す機会とする。	事前に、これまでの学校での自身の体験等をもとに、不登校や非行などの課題について考えておく。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第4回	対面	いじめについて、現状の問題点や課題について解説する。生徒の発達段階や課題に応じた具体的な対応策を紹介する。また、心理・医療・福祉・法律等の専門家や機関との連携について紹介する。新聞やネットの記事などにも普段から注意しておく。	事前に、いじめについて関連書物やインターネット等で調べる。これまでの学校での自身の体験等をもとに、その課題について考えておく。 授業後は、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第5回	対面	教育相談における査定法としての心理検査の意義と役割について解説する。自己理解と他者理解について、心理検査等を活用して自身の傾向を知ること、自己と他者の理解を深める。	事前に、教育に関する心理検査にはどのようなものがあるか、インターネット等で調べる。また、その効果について考えておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第6回	対面	教育相談に有用な検査の技法と実際例を紹介し、心理検査の結果の利用法を解説する。学校現場における活用例も紹介する。	事前に、交流分析やエゴグラムについて、関連書物やインターネット等で調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第7回	対面	教育におけるカウンセリングについて、実際の場面での技法などを具体的に紹介する。また、仮想事例を基に教育相談の進め方を解説する。	事前に、教育におけるカウンセリングについて調べておくこと。これまでの体験をもとに、教育相談の有効性について考えておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第8回	対面	人間関係づくりに役立つワークや参考書の紹介をする。教育相談に必要な技法論（受容・傾聴・共感等）の具体的な進め方を事例を通して解説する。	事前に、配布予定資料に記載されている参考書等を時間があれば読んでおく。インターネット等でカウンセリングについてのポイントを調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。授業で紹介したワークや参考書等をできる限り読んで見ること。	3時間
第9回	対面	カウンセリングをするにあたり、簡潔に質問するなどの技法のポイントを紹介する。事例を通して教育相談における基礎的な技法や態度の理解を深める。	事前に、これまでの授業で紹介した書物や実践例を参考に、自身が相談を受けた場合の対応について、心配なことや気になることを考えておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第10回	対面	教育相談に必要な物理的・人的条件、教師間及び他の専門家（機関）との連携などについて解説する。チームとしての組織的な取り組みについて具体例を紹介し、解説する。	事前に、学校に関わる専門機関にはどのようなものがあるかをインターネット等で調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第11回	対面	保護者との教育相談について、事例を通して解説する。保護者の抱える悩みや役割、家族の抱える問題、保護者との相談のあり	事前に、保護者との教育相談とはどのようなものか、家族の抱える問題にどのようなものがあるかを、自身で考えるとともにインターネット等で調べてお	3時間

		方など、具体的な進め方を紹介し解説する。	く。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	
第12回	対面	発達や不登校などの課題を抱える生徒の保護者との相談の中で、陥りがちな問題点を紹介し、連携の方法を解説する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割等について解説する。	事前に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割等についてインターネット等で調べておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第13回	対面	いじめや虐待の事例を通して、教育相談における具体的な対応を紹介し、解説する。	事前に、いじめや虐待の実態をインターネット等で調べる。その対応について、自身の考えを整理しておく。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第14回	対面	生徒の心の問題や不適応行動などの解決の手段としてピア・サポート活動などのトレーニング内容や取り組みを紹介し、支援の方法を解説する。	事前に、ピア・サポートについて、書物やインターネット等からその概要と役割について予習しておくこと。 授業後に、授業で学習した内容を復習しておく。	3時間
第15回	オンデマンド	本授業で学修したこれまでの内容を整理する。教育相談の意義と役割、教育相談に役立つ理論や方法、カウンセリングの基礎的知識や技法、教育相談の具体的な進め方の要点、学校の組織的な取り組みと専門家などとの連携の必要性などを理解したかを確認する。	オンデマンドを視聴して、これまで学んだ内容について、自分なりの整理をする。試験に向けて、今後の自身の取り組みたい内容について考え整理しておく。	3時間

科目名	教育実践指導論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り		
授業の目的及び概要	3 年次の教育実践指導論と 4 年次の教育実践指導論は一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、それまでの学んだことをふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧に振り返って総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりと自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の 3 点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあきらかにすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 30 年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に戻ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択」し、「実践と省察」をくり返す体験をとおして「成長」してきます。生徒は全身で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①授業予定と概要 ②教育実習の目的と心構え（4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務） ③教育実習のイメージ化（自身にとっての教育実習の課題を考える）	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直して、自身の教育実習の達成課題をまとめる。	4時間
第2回	対面	①学校の長い1日（教員の学校勤務の実際） ②学校経営と校務分掌（組織体としての学校とその実際） ③教職員、生徒との接し方（「教える立場」・指導をうける・学びあう・社会的常識）	学校の日常業務の内容をふりかえり、学校教員の仕事の特徴をまとめる。	4時間
第3回	対面	①実習日誌の記録（書くことの意義、記入項目と記入方法、活用） ②実習期間中の過ごし方 ③レポート課題（教育実習における達成課題を設定する）	教育実習校の指導教諭の先生との接し方や指導・助言をどのように受けとめるのか、再度受講生どうしで各自の弱点をおさえながらふり返る。	4時間
第4回	対面	①ホームルーム指導の実務（特別活動、基礎集団としてのホームルーム、ホームルーム活動の目標） ②「クラスづくり」の実践例（読み合わせと分析）	中学校でのクラスづくりの実践記録を読み直し、担任としての気構えとクラスづくりの視点をふりかえる。次回分析する実践記録から保護者との連携の意味について考察する。	4時間
第5回	対面	①ホームルーム指導の実務（学校行事の目的と意義、進め方、） ②学年担任団の役割（学年集団の指導と連携） ③保護者との連携（信頼と協力） ④課題（次回の学習指導案の目標、ねらいの設定）	配布する教科書本文の資料「南北に引き裂かれる－朝鮮戦争と冷戦－」をもとに、授業プランを構想する。	4時間
第6回	対面	①学習指導案の作成（中学社会・歴史的分野「現代の日本と世界」の単元の指導案作成）	教育実習中に実習授業で使用する教材資料について、どれか1つをとりあげて、どのように活用するかを構想する。	4時間
第7回	対面	①資料（文字・図・映像）の作成と使い方（PCを使用した教材の作成とプロジェクターによる活用）	配布する地形図について地形図のしくみを調べ、その地域の特徴を把握する。	4時間
第8回	対面	①板書の作成・書き方 ②地図の作成、活用方法	中学・高校の教科書や資料を参考にして、板書メモをつくる。	4時間
第9回	対面	教育実習に向けて、模擬授業を構想する授業展開を考える	教科書の内容をまとめる。	4時間
第10回	対面	教育実習に向けて、模擬授業を構想する発問・指示を考える	授業展開を練習する。	4時間

第11回	対面	教育実習に向けて、模擬授業を構想する 学習活動を考える	授業時の学習活動を予測・整理する。	4時間
第12回	対面	模擬授業の発表 中学校の授業	模擬授業の内容について講評する。	4時間
第13回	対面	模擬授業の発表 高等学校 地理歴史科 の授業	模擬授業の内容について講評する。	4時間
第14回	対面	模擬授業の発表 高等学校 公民科の授 業	模擬授業の内容について講評する。	4時間
第15回	オンデ マンド	模擬授業の振り返り	「教育実習」にむけて自身の課題を明確にする。	4時間

科目名	教育実践指導論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	田中 曜次	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育実習を行うためのより実践的な力量形成と教育実習後の振り返り		
授業の目的及び概要	3 年次の教育実践指導論と 4 年次の教育実践指導論は一体のものであり、教職関係科目で習得した理論や指導技術を教育実践的な視点から総合した教育実習のための力量形成をはかるものです。特に教育実習ガイダンスにおいては、教育実習の意義と目的、その基本的心構えを理解し、学校経営、教員の服務、校務分掌、学級経営、生活指導の内容を学習します。教育実習のための具体的な準備や実習日誌の記入などの実務についても理解します。教育実習前に、これまで学んだことをふまえて自身の教育実習の達成課題を設定し、教育実習終了後は、その体験を丁寧にふり返って総括レポートを作成し、発表・交流によってその成果と課題を整理します。これらの事後学習は教職に対する意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長にたいする温かいまなざしと教育者としての使命感を養うことにつながります。この科目の履修にあたっては、生徒の人格形成にかかわる教職の社会的使命をしっかりと自覚して、真摯な姿勢で受講することが求められます。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	教育実習とは、教育現場で生徒と直に接する教育活動を体験し、教員の仕事や学校経営、生徒の実態についての総合的な認識と理解を獲得するとともに、知識・理論・技術と実際の教育活動との相互関係を認識し、自身の実習課題をつかみ実践することです。教育実習を充実したものとするため、本科目の到達目標は以下の 3 点を設定しています。 ①教育実習の意義と目的を十分に理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習における自身の達成課題を設定できる。 ③教育実習体験を多面的な視点から総括し、レポート作成・発表・交流によって成果と今後の課題をあきらかにすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で行うディスカッションや総括レポートを基にした発表、討議のなかでコメントしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 30 年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>受講生の皆さんにとって、教職課程のなかで最も労力と集中力を注がねばならないものが教育実習であることは間違いありません。けれども、教育実習は教職課程におけるハイライトといえる経験であるといえます。ほとんどの受講生が春学期の期間にそれぞれの母校で教育実習をおこない、2～3週間後に本学に戻ってきます。みなさん自身は気づかないのですが、みなさんの顔つきが以前と変わったことを伝えます。みなさんは「学ぶ」立場でなく「教える」立場で、「自分の意志で判断して選択」し、「実践と省察」をくり返す体験をとおして「成長」してきます。生徒は全身で「新しい先生」を迎え、実習生はさまざまな場面での生徒の「反応」を感動的に、あるいは憔悴して経験します。こうして人間的ふれあいというかけがえのない貴重な体験が教育実習であり、人生の上でも大きな財産ともなります。有意義な教育実習にするために、事前準備と事後の振り返りを精一杯してほしいと思います。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①授業予定と概要 ②教育実習の目的と心構え（4つの目的、準備と心構え、実習校との連絡実務） ③教育実習にむけて、課題を捉えなおす	授業のレジュメにある先輩の教育実習体験記を読み直して、自身の教育実習の達成課題をまとめる。	4時間
第2回	対面	教育実習にむけて各自の課題を発表	授業で指摘された課題を、学習指導と生徒指導に分けて整理する。	4時間
第3回	対面	教育実習に向けて 学習指導案、日誌や記録の書き方を整理する	これまで作成した指導案などについて、指摘された問題点などを整理する。	4時間
第4回	対面	模擬授業の発表 中学校 道徳 特別活動	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った授業計画を改善する。	4時間
第5回	対面	模擬授業 高等学校 特別活動 総合的な学習の時間	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った授業計画を改善する。	4時間
第6回	対面	模擬授業 中学社会科	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った学習指導案を改善する。	4時間
第7回	対面	模擬授業 高等学校 地理歴史科 公民科	具体的な指示や発問などを考え、これまでに作った学習指導案を改善する。	4時間
第8回	対面	教育実習の記録を整理する	教育実習を総括し、成果と課題について文章にまとめる。	4時間
第9回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第10回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第11回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第12回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第13回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第14回	対面	教育実習の振り返り（受講生による教育実習の報告、受講生の質疑応答・討議）	教育実習を総括し、文章にまとめる。発表後は、討議内容をふまえて書き直す。	4時間
第15回	オンデマンド	①教育実習の成果と課題 ②教育実習をどう生かすか	「教職実践演習」にむけて自身の課題を明確にする。	4時間

科目名	教育実習 I	開講年度	2024 年度春学期
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	実習
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育現場での学習指導や生徒児童の実体験の中から、授業の内容や方法、生徒理解や生徒とのかわり方について学ぶ		
授業の目的及び概要	高等学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。 教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。 ②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育場面で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に即して修得する。 ③教育実習と通じて、教職生活を経験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 29 年 ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）、文部科学省、東山書房、平成 30 年	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、全て出席すること。</li> <li>・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。</li> <li>・実習校の指導にしたがい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が</li> </ul>		



求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動が要求される。  
・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習：実習校のことについて HP などで確認する。 復習：ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4 時間
第2回	対面	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第3回	対面	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第4回	対面	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第5回	対面	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第6回	対面	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第7回	対面	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第8回	対面	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第9回	対面	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第10回	対面	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第11回	対面	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第12回	対面	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4 時間
第13回	対面	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4 時間
第14回	対面	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4 時間

第15回	オンデマンド	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの参加の下に、研究授業の振り返りを行う。	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4時間
------	--------	--	---------------------------------------	-----

科目名	教育実習Ⅱ	開講年度	2024 年度春学期
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	実習
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育現場の実体験から、授業の実践や生徒とのかかわり方、教員間の連携などについて学ぶ		
授業の目的及び概要	<p>中学校の教員免許取得のために、中学・高等学校の教育現場において、実際に生徒に触れつつ、生徒理解の必要性を実感するとともに、教員の仕事や教育現場の「実際」を体験的に理解することを、目的とする。</p> <p>教育実習のプロセスとしては、実習校において、授業をはじめとした教育活動の「観察」とそれらへの「参加」の段階を経て、指導案の作成とそれに基づく授業を行うことで、授業や生徒指導などについて実体験していく。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>①教育実習を行うことで、授業や生徒指導などの実際を体験し、教育者に求められる資質を確認する。</p> <p>②教育実習以前の教職課程において学修した知識・技能を実際の教育場面で活用し、教育実践に必要な知識・技能・態度を現実的に即して習得する。</p> <p>③教育実習と通じて、教職生活を経験することで、教職への意欲と使命感を自覚し、教員への志望を再確認するとともに、教員として成長すべき方向性や課題を発見・確認する。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	日々の教育実習中の指導・助言、さらに日々作成する教育実習日誌へのコメント、指導案作成にあたっての指導・助言を通して行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	<p>①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 29 年</p> <p>②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示），文部科学省，東山書房，平成 30 年</p>	ISBN	<p>①9784827815795</p> <p>②9784827815672</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	<p>・「内諾」取得に関するガイダンス、さらに教育実習のためのガイダンスには、全て出席すること。</p> <p>・教育現場での生徒や教員との関わりを通して、実体験の中でこれまで学修したことを活用し、現実に即した理解と学修を目指してほしい。</p> <p>・実習校の指導にしたがい、真剣に取り組むこと。実習中は、現場教員と同様の社会的責任が求められるので、教育実習生には、この社会的責任を自覚した言動と社会常識を踏まえた行動</p>		

が要求される。  
・教育者にふさわしい話し方、服装、態度を心がけること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	実習校でのガイダンス 教育実習の意義と、実習生の持つべき心構えを踏まえ、実習校の組織や教育活動の概要を知る。	予習：実習校のことについて HP などで確認する。 復習：ガイダンスの内容を整理し教育実習に備える。	4 時間
第2回	対面	実習校の教育活動の「観察」 実習校における生徒との接し方、服装、言葉遣いなど実習生にふさわしい行動について理解する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第3回	対面	実習校の「学年」の「在りよう」の観察 実習校各学年の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第4回	対面	実習校の「学級」の「在りよう」の観察 実習校担当学級の生徒の学校生活を観察する。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第5回	対面	実習校の授業の観察 指導教員の学習指導の進め方を参観し、学習指導上の工夫と生徒の反応について学ぶ。	予習：参観する授業とクラスについて予習する。 復習：参観した授業とクラスについて復習する。	4 時間
第6回	対面	授業の在り方の学習 教材研究の方法、授業の構築について、授業の参観と「参加」から学び、学習指導案作成の参考とする。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第7回	対面	授業の「参加」と教材研究 指導教員の授業に「参加」しつつ、授業のための教材研究を行う。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第8回	対面	授業の「参加」と学習指導案作成 指導教員の授業に「参加」しつつ、学習指導案を作成する。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第9回	対面	教材研究と学習指導案作成 実習生が授業実習を行うための教材研究をさらに進めつつ、学習指導案作成について指導を受ける。	予習：参加する授業内容について予習する。 復習：授業に備えて教材研究を行う。	4 時間
第10回	対面	学習指導案作成と授業の準備 指導に基づいて、学習指導案作成を続けるとともに、授業を行うための準備をする。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第11回	対面	授業の準備と予行練習 教材研究の内容をより深めるとともに、学習指導案をより練り上げ、授業の予行を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。	4 時間
第12回	対面	学習指導案と授業計画の確定 学習指導案を完成左折とともに、授業の進め方に習熟する。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：学習指導案に従い授業の進め方を構想する。	4 時間
第13回	対面	授業実習 実際に、実習生のみで1時間の授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて研究授業に備える。	4 時間
第14回	対面	研究授業 指導教員やその他の教員、実習生の参観のもとに授業を行う。	予習：指導教諭の指導に従い指導案を作成する。 復習：指導教諭の指導を踏まえて、研究授業の反省点まとめる。	4 時間
第15回	オンデマンド	研究授業の振り返り 指導教員やその他の教員、実習生などの	指導教諭やその他の教員らのコメントを踏まえて、研究授業の改善点をまとめる。	4 時間

	参加の下に、研究授業の振り返りを行う。		
--	---------------------	--	--

科目名	教職実践演習	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教職課程の学修と教師としての資質を磨く。		
授業の目的及び概要	<p>この科目の目的は、教職課程における学修の総仕上げを行うことである。より具体的には、「教職に関する科目」や「教科に関する科目」の履修、教育実習を経て、それまで学修したことへの振り返りや各自の今後の課題・目指すべき方向などの明確化を行う。</p> <p>その際、講義や演習（報告、発表、討論）、ロールプレイなどの様々な形態を組み合わせ、教育現場を意識した課題を取り扱う。</p> <p>前半部分（第1回～第8回）では、本演習以前に経験した教育実習などの体験の振り返りと自己の課題の発見など＜自己の経験＞と、講義や講演から得た知識とを融合させつつ、レポート作成や報告、討論を行う。</p> <p>後半部分（第9回～第14回）においては、教育実習の経験を踏まえて教科の知識と授業実践の結合を図り、教材研究と模擬授業などを行う。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>大学で学んだ知識と、教育実習などを通じて得られた経験知との結合を図り、「使命感や責任感に裏打ちされた実践的指導力を持った教員」となっていくための基礎となる資質を身につけている。</p> <p>そうした資質形成の確認を、以下の3点を学修する。</p> <p>①教師としての使命感、責任感、教育的愛情を身につける。</p> <p>②教師としての社会性、対人関係の能力の必要性を理解することができる。</p> <p>③教科の指導力や生徒理解の力などについて具体的に考えることができる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	演習前半部分に課したレポート課題については、演習期間中にコメントや論評を行う。演習後半部分のものについては、演習の中で行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	<p>①『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省 東山書房（2020）ISBN-10：4827815798 ISBN-13：978-4827815795</p> <p>②『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』文部科学省 東山書房（2018）ISBN-10：4827815674 ISBN-13：978-4827815672</p> <p>③『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』文部科学省 東洋館出版社（2018）ISBN-10：4491034710 ISBN-13：978-4491034713</p>	ISBN	<p>①9784827815795</p> <p>②9784827815672</p> <p>③9784491034713</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	教職課程として最後の仕上げとなる科目であるので、この科目の履修の過程で、本学として教員免許状を取得するにふさわしいか、否かの判断が行われるとよい。この点を、履修者は念頭に置いて履修して欲しい。この科目の単位取得なしでは、教員免許取得申請はできない。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教育実習や学校ボランティア、学校インターンシップなどの体験の総括と振り返りを通じて、自己課題の発見 「ふり返し」と自己課題についてレポートして次回までにまとめる。	事前：「事前レポート」の作成 事後：『事前レポート』の加筆、修正	4時間
第2回	対面	第1回以来の総括と自己課題のレポートに基づいて報告と討論 本演習における今後の自己目標の設定	事後： 「事前レポート」の完成	4時間
第3回	対面	聖職論、労働者論、専門職論などの教師論を概観しつつ、教職の意義と役割について考察し、自己の教師像形成の糧とする。	事後：演習内容をふまえて、「レポート」の作成	4時間
第4回	対面	「私の考える「教師の仕事」としてレポート作成 (第5回目までに完成させ、持参する)	事後： 「レポート」の完成	4時間
第5回	対面	前回は作成したレポートに基づく報告と討論	事後：演習参加者からのコメントと討論の整理と振り返り	4時間
第6回	対面	ゲスト・スピーカーによる講演 学級経営や保護者対応の現状と課題について講演と質疑応答	事前： 学校の保護者対応に関する下調べ 事後： 配付プリントの学習	4時間
第7回	対面	前回の講演を踏まえて具体的な事例研究と討論、ロールプレイ(ゲスト・スピーカーの参加)	事後：学級経営や保護者対応の現状と課題についての整理と振りかえり	4時間
第8回	対面	ゲスト・スピーカーによる講演 学校現場における今日的課題に関する講演と質疑	事前： 学校教育における今日的課題に関する下調べ 事後： 配付プリントの学習	4時間
第9回	対面	教員免許の「地理歴史」分野の知識確認テスト	事前： 「確認テスト」の準備学習 事後： 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4時間
第10回	対面	教員免許の「公民」分野の知識確認テスト	事前： 「確認テスト」の準備学習 事後： 「確認テスト」の復習と自己の学習課題の確認	4時間
第11回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(地理歴史分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第12回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(公民分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第13回	対面	教材研究と授業設計と模擬授業(中学社会分野)	事前： 教育実習での指導を踏まえての教材研究と指導案の準備 事後： 演習でのコメントを踏まえての自己の課題の確認	4時間
第14回	対面	全授業を踏まえての、教科指導力に関する総括と振り返り	事後： 本演習を踏まえての教材研究と指導案の修正および自己の課題の確認	4時間

第15回	オンデマンド	教職実践演習を通して確認された、教職として求められる資質の振り返りと自らの課題の確認	事後： 本演習を踏まえての自己の課題の確認と「総まとめレポート」の作成	4時間
------	--------	--	-------------------------------------	-----



科目名	教育方法論	開講年度	2024 年度春学期
担当者	北川 剛司	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究		
授業の目的及び概要	この科目では、教育科学の立場から提案されてきた主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について、受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業づくりのあり方を検討する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子供たちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。 この科目の到達目標は以下の4点である。 1) 教育方法や授業設計・評価に関する基本的な理論や方法を理解している。 2) 教育方法（情報通信技術の活用を含む）に関する基礎的な事項や方法を理解している 3) 指導案の作成や分析を通して実際の授業設計をすることができる。 4) 情報通信技術を効果的に活用した指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	主として各授業の前後の休み時間等を使って、授業への取り組みの様子や達成についてフィードバックを行う予定です。また、必要に応じて、授業中の提出物にコメント記入をし返却を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年告示）， 文部科学省，東山書房，2020 年	ISBN	①9784827815801
参考書	①佐藤学『教育の方法（放送大学叢書）』左右社、2010 年。 ②田中耕治編『よくわかる教育評価 第 3 版』ミネルヴァ、2021 年。	ISBN	①9784903500348 ②9784623091645
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		40
	【定期試験】WEB 試験		0
	その他（％）		0
その他の内容			
この科目の受講にあたって	教職を目指すみなさんは、「よい授業とはどんなものだろう」と考えたことがあると思います。本授業ではこの問いに受講後に各自が答えられるようになることを目指します。よい授業ができるようになると、子どもにとってよいというだけでなく、教師にとってもやりがいや自信につながります。よい授業についての目指すべき方向をまずは理解することが大切です。よい授業についてのイメージを受講者全員で深めていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 社会の変化による現在の教育課題と教育方法 学力論争について理解し、何が問題として指摘されているのかを考える。そして学力を子ども達が身につけていくために何が可能かを教育方法から考える。また学校が社会の求めるものとのかわり度どのように変遷してきたか、今何が求められているのかという現在の教育課題を理解する。	・事前に平成 29 年度告示 中学校学習指導要領解説（総則編）pp. 1-5 を読んでおくようしてください。	2 時間
第2回	対面	教育方法の基礎的理論 教授学のキーワード（アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり）を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第2回授業中に配布する資料「教授学のキーワード（アクティブ・ラーニング、発問づくり、教材づくり）」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第3回	対面	主体的・対話的で深い学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む） 「教育方法」に関するキーワード（授業規律、授業形態、協同学習、情報機器の活用、など）を紹介し、それにもとづいて、実際にどのような教育方法が求められるかについて考えます。	・第3回授業中に配布する資料「「教育方法」に関するキーワード（授業規律、授業形態、協同学習、情報機器の活用、など）」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第4回	対面	個別最適な学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む） 意図的な教育的働きかけである「授業」をデザインする場合、全体および個別の目標設定が重要となる。目標は達成可能な目標なのか、方向を指し示す目標なのか、など、授業の目標設定をどのように考えていくのか、その手続きと方法を学ぶ。また目標の達成を確かめ、目標設定自体をいかに評価するのかについてもあわせて考える。指導案作成2（目標の作成）	・第4回授業中に配布する資料「個別最適な学び」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第5回	対面	生徒の学びを促す授業のデザイン 授業は、教授活動と学習活動が効果的に機能するときその成果を生み出す。そのため、ここでは、学習活動を支援するための考え方を、先行する学習理論を通じて学ぶ。	・第4回授業中に配布する資料「学習理論」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	教育の基礎的な技術、教材、教具、学習環境、情報通信技術 授業は、子ども達の学習スタイルや認知スタイルによって多様な形態をもつ。子どもの学びに可能な限り即した柔軟な授業方法、教材、学習環境、情報機器活用について考える。	・第6回授業後に配布する資料「学習環境、情報通信技術」を必ず授業の後読んで予習をしてください。	4 時間
第7回	対面	学習評価の理論 子ども達の学びをどのように評価するのか？評価に関しての基礎を学び、相対評価、絶対評価、個人内評価それぞれの長所と短所を学ぶ。そしてその効果的な連携利用を考える。	・第7回授業中に配布する資料「相対評価、絶対評価、個人内評価」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間
第8回	対面	学習評価の方法、教育データを活用した指導	・第8回授業中に配布する資料「教育データを活用した指導」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4 時間

第9回	対面	今日の情報通信技術を活用した教育の意義と課題に関する講義をオンライン動画で実施する。(オンライン動画形式であることを活用して、教育実践へのさまざまな情報通信技術の導入の仕方について紹介する。)	・第9回授業中に配布する資料「情報通信技術」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第10回	対面	各教科を横断した情報活用能力と情報リテラシーの育成	・第10回授業中に配布する資料「情報活用能力、情報リテラシー」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第11回	対面	学校における ICT 環境の整備と情報通信技術を活用した校務の推進	・第11回授業中に配布する資料「学校における ICT 環境の整備」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第12回	対面	情報通信技術を活用した教育方法、特別の支援を必要とする生徒への活用	・第12回授業中に配布する資料「情報通信技術と特別支援教育」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第13回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想①(情報通信機器の活用)	・第13回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用①」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第14回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想②(学習指導案の作成)	・第14回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用②」を必ず授業の後読んで復習をしてください。	4時間
第15回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想③(模擬授業の実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回授業中に配布する資料「情報通信機器の活用③」を必ず授業の後読んで復習をしてください。</li> <li>・教育課程の近年の定義と指導案の対応について説明できるようにしてください。</li> <li>・教育評価の基本的な考え方としてのパフォーマンス評価、ルーブリックについて説明できるようにしてください。</li> <li>・情報通信機器の授業への活用について説明できるようにしてください。</li> </ul>	6時間

科目名	教育方法論	開講年度	2024 年度秋学期
担当者	中村 哲也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教授＝学習活動の理論的・実践的探究		
授業の目的及び概要	この科目では、教育科学の立場から提案された主要な学習指導の理論について概説する。また、各理論を背景に開発され実践されてきた教育方法や技術、情報通信技術を活用した教育、情報モラル教育について、受講者が実際に体験したり、意見交換をしながら授業づくりのあり方を検討する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>教育の情報化の動きの中で、教育方法に期待されていることを理論的・実践的に学ぶとともに、子供たちが教育内容に取り組む際にそれを支援する学習環境の在り方を、事例研究及びカリキュラムデザインの実際を通して学ぶ。</p> <p>この科目の到達目標は以下の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育方法や授業設計・評価に関する基本的な理論や方法を理解している。</li> <li>2) 教育方法（情報通信技術の活用を含む）に関する基礎的な事項や方法を理解している</li> <li>3) 指導案の作成や分析を通して実際の授業設計をすることができる。</li> <li>4) 情報通信技術を効果的に活用した指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。</li> </ol>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各自が調べた内容を授業において発表する。その内容について学生の相互評価、および教員からのその都度評価を行う。 作成したレポートや指導案などは授業内で取り上げ、評価及び改善点を示します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」、大島 純 千代西尾 祐司、北大路書房、2019 年 *テキストの内容を各自がまとめて他のメンバーに伝えたり、全体で内容を共有してディスカッションするなどの際に使用します。テキストがないと学習がすすめられませんので、必ず購入してください。	ISBN	①9784762830808
参考書	①中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） ②高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）	ISBN	①9784827815795 ②9784827815672
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		5
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		5
	成果発表（口頭・実技）		10
	中間試験		80
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0

	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	他の学生と協同で学ぶ機会が多くなる。欠席があると他のメンバーの学習に支障をきたす場合があるので、基本的には全授業の出席を求める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 社会の変化による現在の教育課題と教育方法	予習：今までの授業を振り返り、どのような教え方があり、どのような教え方が効果的だったかについて考えておく（120分） 復習：授業で紹介した教育方法について、今までの授業を振り返り、その関連性について考えておく（120分）	4時間
第2回	対面	教育方法の基礎的理論	予習：学習指導要領の解説をもとに学習指導要領改訂についての内容について理解する。（120分） 復習：それぞれが分担した学習内容項目について、文献等で調べる。（240分）	6時間
第3回	対面	主体的・対話的で深い学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第4回	対面	個別最適な学びのための教育方法（情報通信技術の活用を含む）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第5回	対面	生徒の学びを促す授業のデザイン	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第6回	対面	教育の基礎的な技術、教材、教具、学習環境、情報通信技術	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第7回	対面	学習評価の理論	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第8回	対面	学習評価の方法、教育データを活用した指導	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第9回	対面	今日の情報通信技術を活用した教育の意義と課題	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第10回	対面	各教科を横断した情報活用能力と情報リテラシーの育成	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（240分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	6時間
第11回	対面	学校における ICT 環境の整備と情報通信技術を活用した校務の推進	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第12回	対面	情報通信技術を活用した教育方法、特別の支援を必要とする生徒への活用	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第13回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想①（情報通信機器の活用）	復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	2時間
第14回	対面	情報通信機器を活用した授業の構想②（指導事例等）	予習：学習内容について事前に文献等から調べ、調べた内容について文章としてまとめる。（120分） 復習：今回の学習内容を自分なりにまとめ理解する。（120分）	4時間

第15回	オンデマンド	情報通信機器を活用した授業の構想③(指導案等作成)	予習：今までの学習を振り返り、自分なりの言葉で説明できるようにする(120分) 復習：教育方法に関する学習内容に関しての自分の学習に関して理解が不十分だった点などについてまとめる(120分)	4時間
------	--------	---------------------------	--	-----

科目名	社会科教育法	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	社会科授業のための学習指導理論と方法と実践		
授業の目的及び概要	社会科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における社会科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養するための授業を行う。講義では、社会科の意義、学習指導要領における社会科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、その振り返りから学びつつ、学習内容をより発展させる方向性も考える。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	1、学習指導要領における社会科の目標、内容ならびに社会科の指導や授業に関する基本的事項と理論を理解する。 2、社会科の学習指導理論を理解するとともに、実際の社会科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。 3、社会科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	さまざまな報告やプレゼンテーション、模擬授業そしてレポートに対する教授する側からと、学生相互の対話によるコメントをおこなう。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	『中学校学習指導要領〈平成 29 年告示〉解説 社会編』 文部科学省、東洋館出版社、平成 29 年	ISBN	9784491034713
参考書	授業時に紹介する	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（%）	30	
	その他の内容	学習指導案	
この科目の受講にあたって	教員になるということの大変さを肌で実感し理解してもらえれば万全です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	社会科を学ぶ社会的・教育的意義	学生が社会科の教職への途を選んだ理由について討	2 時間

			論を行い、討論の経過・内容・結論などの点を事後学修としてまとめ、次回講義で提出します。	
第2回	対面	学校教育における社会科、教育課程における社会科	社会科とその他の教科との関連性、学校教育における社会科の位置付けについて、授業内で使用した学習指導要領の記述を参照してまとめるようにします。	4時間
第3回	対面	学習指導要領における社会科の学習指導	講義で学生とともに学習指導要領の記載事項を分析・整理し、それらを再度自分なりにまとめるようにします。かなりの時間を要しますが、教職の途には欠かせない作業です。	6時間
第4回	対面	学習指導要領と社会科各分野の学習指導	学習指導要領の検討を経て授業内で把握した諸事項を改めて文書化する作業です。	4時間
第5回	対面	社会科の学習指導理論と授業	模擬授業の年間計画と進め方の詳細を発表し、学生が個々に単元テーマを選択し、そのテーマを選んだ意図や考え方を文書化する作業を行います。	6時間
第6回	対面	社会科授業の構想と計画・立案	資料として示した学校の年間計画のひな型により、どの単元がどこに配置されるのかを把握し、この事例を参照して自分なりのプランを作成します。	4時間
第7回	対面	社会科授業の計画・立案と学習指導案と評価基準	配布した幾つかの学習指導案を参照した上で、自分の指導案を作成します(2週間程度の時間が必要になります)。	6時間
第8回	対面	学習指導案と教材研究	自分が行う模擬授業の教材を集め、授業の基本構想に沿った講義ノートを作成します。	4時間
第9回	対面	教材研究の方法	講義時に示した幾つかの事例を基礎として、教科書以外の教材にはどのようなものがあるのかを調べてみます。	4時間
第10回	対面	授業計画と授業方法・教材(情報機器及び教材の活用を含む)	授業で見た教育実習の映像について、感想と批評をまとめます。	4時間
第11回	対面	授業の方法(情報機器及び教材の活用を含む)	これから実践する模擬授業についての方法論、主要な論点などを自分なりに整理する作業をおこないます。	4時間
第12回	対面	授業の方法と実際と評価 模擬授業の方法や振り返りについて説明	模擬授業を参加者全員で評価するシステムにより、授業を行う際の注意点を自分なりに検討しまとめておきます。	4時間
第13回	対面	授業の実践例(地理的分野)① 地理的分野を学ぶ意義	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	4時間
第14回	対面	授業の実践例(地理的分野)② 世界と日本の地域構成	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	4時間
第15回	対面	授業の実践例(地理的分野)③ 世界の諸地域と生活と環境	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	4時間
第16回	対面	授業の実践例(地理的分野)④ 日本の諸地域と地域調査の方法	地理の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます(2時間程度)。その後、学習指導案を作成します。	4時間
第17回	対面	授業の実践例(地理的分野)⑤ 「地理」授業の小括	地理の授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第18回	対面	授業の実践例(歴史的分野)① 歴史的分野を学ぶ意義	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第19回	対面	授業の実践例(歴史的分野)② 歴史の見方、捉え方、時代区分	歴史の模擬授業を行った学生の感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第20回	対面	授業の実践例(歴史的分野)③ 近世までの日本とアジア	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します	4時間



			(2週間程度)。	
第21回	対面	授業の実践例(歴史的分野)④ 近現代の日本と世界	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第22回	対面	授業の実践例(歴史的分野)⑤ 「歴史」授業の小括	歴史の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第23回	対面	授業の実践例(公民的分野)① 現代社会と文化の諸特徴	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	2時間
第24回	対面	授業の実践例(公民的分野)② 市場と経済及び国民生活と政府の役割	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第25回	対面	授業の実践例(公民的分野)③ 人権尊重と憲法及び民主政治と政治参加	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第26回	対面	授業の実践例(公民的分野)④ 世界平和と人類の福祉及び国際社会の課題	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第27回	対面	授業の実践例(公民的分野)⑤ 「公民」授業の小括	公民の模擬授業を行った学生に感想と反省の文を書いてもらいます。その後、学習指導案を作成します(2週間程度)。	4時間
第28回	対面	社会科における発展的な学習内容	担当者が模範となる授業を行い、教科指導の進め方、教材の有効な使用法、各分野にまたがる基礎的な教養の発現などを示し、学生が自らの意見、感想、批評などをまとめるようにします(2時間程度)。	6時間
第29回	オンデマンド	発展的な学習内容とその指導	学生がこの一年間に受講した総括を文章化しまとめます。	4時間
第30回	オンデマンド	社会科授業のための総括 実践研究の動向と授業設計の向上	前回の課題を持ち寄り、全員で討議し、一年間の振り返りを行います。学生はこの授業を受けて自分自身の何が変わったかをまとめるようにします。	4時間

科目名	社会・地理歴史科教育法	開講年度	2024年度春学期、2024年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	地理歴史科の教育的意義と指導理論・方法を学び、実践的な授業手法を身につける。		
授業の目的及び概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理歴史科の意義や育成すべき資質能力、学習指導要領における地理歴史科の目標を理解し、さらには学問的背景と関連させた教科内容の理解を進めることで、教員になるための資質を涵養することを目的とする。</li> <li>・本講義では、地理歴史科の意義、学習指導要領における地理歴史科の目標、学習内容について学び、実際の社会科指導や授業を想定した授業計画、学習指導案の作成を行う。さらに、これらを踏まえて模擬授業を行い、学習内容をより発展させる方向性について考える。</li> <li>・なお、本講義では第1～15回を地理教育分野、第16～30回を歴史教育分野に学修内容を分けて進めるものとする。</li> </ul>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DPとの関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下のURLから確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>ここでは、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>①学習指導要領における地理歴史科の目標、内容並びに地理歴史科の指導や授業に関する基本的事項や理論を理解する。</p> <p>②地理歴史科の学習指導理論を理解するとともに、実際の地理歴史科の指導や授業を想定した計画・立案など授業設計の方法に関わる基本的事項に習熟する。</p> <p>③地理歴史科の授業の実際について、模擬授業とその振り返りによって学ぶ。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回の授業などで提出する振り返りシート（またはアンケートフォーム）に対して教員がコメントを付して返却する。</li> <li>2. 学生が提出した課題（レポート、指導案、教材など）について、教員がコメントを付して返却する。</li> <li>3. 模擬授業では教員及び学生間での相互評価を行うなど、総合的にフィードバックを行う。</li> </ol>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で2008年まで20年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編, 文部科学省, 東洋館出版社, 2019年	ISBN	9784491036410
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①高等学校学習指導要領(平成30年告示), 文部科学省, 東山書房, 2018年</li> <li>②中学校学習指導要領(平成29年告示), 文部科学省, 東山書房, 2017年</li> <li>③中学校学習指導要領(平成29年)解説 社会編, 文部科学省, 東洋館出版社, 2018年</li> <li>④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史, 国立教育政策研究所教育課程研究センター, 東洋館出版社, 2021年</li> </ol>	ISBN	<ol style="list-style-type: none"> <li>①9784827815672</li> <li>②9784827815795</li> <li>③9784491034713</li> <li>④9784491047010</li> </ol>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0

	【定期試験】レポート試験	20
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	【定期試験】WEB 試験	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>・本授業では、PBL やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを通じて、地理歴史科の指導に関する基本的な知識を身につけ、理解しているかを随時確認する。</p> <p>・授業中の発言を積極的に行うと同時に、課題については次の回の授業や指定された提出期限までに必ず提出できるようにすること。</p> <p>・やむを得ない事情などで授業を欠席した場合などでも、Learning Portal にあげられている授業資料を確認し、次回授業に向けて学修の遅れがないように主体的に学ぶこと。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	地理教育の意義と課題① ▷ 日本の地理教育における歩み、「地理総合」必修化にいたる経緯と背景	事前 本講義のシラバスを熟読し、授業内容について予習を行ってくること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第2回	対面	地理教育の意義と課題② ▷ 学習指導要領および教科書における地理教育の特徴 ▷ 地理総合と地理探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第3回	対面	日本と諸外国の地理教育 ▷ 地理教育における日本と諸外国との比較 ▷ 異文化理解	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第4回	対面	地理教材の活用法①（地理的スキル①） ▷ 地誌学習の意義と役割 ▷ GIS システムなど ICT を活用した地誌学習（日本）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第5回	対面	地理教材の活用法②（地理的スキル②） ▷ 学習内容に応じた教材選定のポイント ▷ GIS システムなど ICT を活用した地理学習（主題学習、動態地誌）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第6回	対面	地理教育における様々な評価方法 ▷ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後	4時間

			授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	
第7回	対面	統計調査や野外調査の分析と考察(地理的スキル③) ▷ 地理各種統計調査や野外調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第8回	対面	授業の計画と学習指導案作成①(地理総合) ▷ 単元構想と学習内容の位置づけ ▷ 指導案作成のポイント	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第9回	対面	授業の計画と学習指導案作成②(地理総合) ▷ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。作成した学習指導案を発表できるように準備してくること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第10回	対面	授業実践①(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ GISシステムなどICTを活用した模擬授業の実践(地理総合)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第11回	対面	授業実践②(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 統計調査を活用した模擬授業の実践(地理探究)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第12回	対面	ハザードマップの作成と防災教育(地理的スキル④) ▷ 重ねるハザードマップの活用例	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第13回	対面	授業実践③(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 日本地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第14回	対面	授業実践④(情報機器及び教材の活用を含む) ▷ 世界地理の模擬授業	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに	4時間

			復習を行ってくること。	
第15回	オンデマンド	地理教育における授業の総括(オンデマンド授業) ▶ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 これまでの授業内容について総復習を行っておくこと。 事後 理解が不十分だったところや要点などをノートにまとめておくこと。	4時間
第16回	対面	歴史教育の意義と課題① ▶ 日本の歴史教育における歩み、「歴史総合」必修化にいたる経緯と背景	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第17回	対面	歴史教育の意義と課題② ▶ 学習指導要領および教科書における歴史教育の特徴 ▶ 歴史総合と世界史探究、日本史探究とのつながり	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第18回	対面	日本と諸外国の歴史教育 ▶ 歴史教育における日本と諸外国との比較 ▶ 異文化理解	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第19回	対面	歴史教材の活用法①(歴史的スキル①) ▶ 様々な写真や図を活用した歴史学習(日本)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第20回	対面	歴史教材の活用法②(歴史的スキル②) ▶ 様々な写真や図を活用した歴史学習(海外)	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第21回	対面	歴史教育における様々な評価方法 ▶ 観点別評価と評価規準の設定	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第22回	対面	文献および各種調査、客観的データの分析と考察(歴史的スキル③) ▶ 歴史的資料や各種調査から得られたデータを読み解く	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってくること。	4時間
第23回	対面	授業の計画と学習指導案作成①(歴史総	事前	4時間

		合) ▷ 単元構想と学習内容の位置づけ ▷ 指導案作成のポイント	前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	
第24回	対面	授業の計画と学習指導案作成②（歴史総合） ▷ 学習指導案の発表と相互評価	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第25回	対面	授業実践①（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（歴史総合）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第26回	対面	授業実践②（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第27回	対面	授業実践③（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ 写真や図、データなどを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第28回	対面	授業実践④（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ ビジュアル教材を活用した模擬授業の実践（世界史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第29回	対面	授業実践⑤（情報機器及び教材の活用を含む） ▷ フィールドワークを活用した模擬授業の実践（日本史探究）	事前 前回の授業資料を熟読し、復習をして授業にのぞむこと。授業で取り上げた基本的事項については質問に答えることができるようにすること。 事後 授業内容についてノートにまとめ、次の授業までに復習を行ってこること。	4時間
第30回	オンデマンド	歴史教育における授業の総括（オンデマンド授業） ▷ 授業で取り上げた重要語句や重要事項などについて復習を行い、知識やスキルの定着を図る。	事前 授業で取り上げた基本的事項について一通り復習を行ってこること。 事後 本授業で出されたプリントなどを中心に復習を行っておくこと。	4時間

科目名	社会・公民科教育法	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	手取 義宏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	教職課程科目		
テーマ	社会科・公民科の基礎理論と授業づくり		
授業の目的及び概要	今それぞれがいる場所でよりよい社会・コミュニティをつくることのできる人間を育てるには私たちはどのような教育を行う必要があるだろうか。その問いに社会科・公民科の教員という立場からビジョンを持って実践に取り組み、試行錯誤しつつ具体化できるような力量を身につけることを目指して、社会科・公民科の基礎理論と授業づくりの学びを開始する。		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	社会科・公民科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。具体的には、 1. 社会科・公民科授業の基礎的な理論を理解すること、 2. 社会科・公民科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について知ること、 3. 社会科・公民科の授業デザインの理論と方法を身につけ、学習指導案が作成できること、 4. 模擬授業の実践と批評を通して授業実践力の基礎を身につけること、 が到達目標である。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回コミュニケーションカードを提出してもらい、講義内でその質問や意見などを取り上げてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省平成 30 年）	ISBN	4487286336
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	【定期試験】WEB 試験	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	この授業を通して、社会科・公民科についてのイメージを拡張し、より豊かな授業の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていききたい。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式			学修時間
第1回	対面	社会科・公民科の意義と教師の役割	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第2回	対面	社会科・公民科授業の構成要素	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第3回	対面	社会科・公民科の目標	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第4回	対面	社会科・公民科の内容とカリキュラム	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第5回	対面	社会科・公民科の教授方法	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第6回	対面	社会科・公民科の評価	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第7回	対面	社会科・公民科における授業デザイン論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第8回	対面	社会科・公民科における発問と問いの理論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第9回	対面	社会科・公民科における教材論	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第10回	対面	社会科・公民科におけるファシリテーション	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第11回	対面	社会科・公民科における対話	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第12回	オンデマンド	復習：社会科・公民科の授業づくりのポイント	映像を視聴してワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第13回	対面	授業の実践例（公共）① 「公共」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第14回	対面	授業の実践例（公共）② 公共的空間における人間の在り方	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第15回	対面	授業の実践例（公共）③ 自立的主体の国家・社会への参画と他者との協働	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第16回	対面	授業の実践例（公共）④ 持続的な社会づくりのための主体	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第17回	対面	授業の実践例（公共）⑤ 「公共」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第18回	対面	授業の実践例（倫理）① 「倫理」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第19回	対面	授業の実践例（倫理）② 人間としての生き方と倫理観・世界観	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第20回	対面	授業の実践例（倫理）③ 国際社会に生きることの自覚	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第21回	対面	授業の実践例（倫理）④ 現代の諸課題と倫理	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第22回	対面	授業の実践例（倫理）⑤ 「倫理」授業の	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大ま	4時間



		小括	かな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	
第23回	対面	授業の実践例（政治・経済）① 「政治・経済」を学ぶ意義	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第24回	対面	授業の実践例（政治・経済）② 民主政治のしくみと主権者の政治参加	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第25回	対面	授業の実践例（政治・経済）③ 現代日本の政治と経済の課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第26回	対面	授業の実践例（政治・経済）④ 国際社会の諸課題	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第27回	対面	授業の実践例（政治・経済）⑤ 「政治・経済」授業の小括	模擬授業担当者以外も、各自が教材研究を行い、大まかな授業デザインを構想してから模擬授業に参加します。模擬授業後のふりかえりに積極的に参加できるようにしっかりと準備をして下さい。	4時間
第28回	対面	公民科における発展的な学習内容 社会参加のデザイン	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第29回	オンデマンド	発展的な学習内容とその指導 探究と PBL	ワークシートの課題に取り組んでもらいます。	4時間
第30回	対面	講義のふりかえり	講義を通して学んだことをふりかえり、教育実習・教員採用試験・および新任教師として教壇に立つための課題を整理します。	4時間

科目名	教育原理	開講年度	2024 年度春学期、2024 年度秋学期
担当者	田中 曜次	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html</a>	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	教職課程科目		
テーマ	教育に関する概念及び歴史と思想		
授業の目的及び概要	<p>教育に関する様々な基本的概念や教育理念について学修するとともに、それらの生成について教育史的・思想史的理解を深めつつ、教育や学校という営みについてどのようにとらえられたか、またそれらが変遷してきたかについて理解する。</p> <p>具体的内容は、以下のとおりである。</p> <p>1) 人や社会にとって、教育や学校がどのような役割・機能を持った営みであるか、さらに現代社会においてどのような働きをしているかについて考察し、教育や学校についての理解を深める。</p> <p>2) 教育や学校について歴史的な変遷をたどりつつ、その背景にある社会的・思想的背景まで理解を深め、公教育制度の存立に関わる諸要因について考察し、理解を深める。</p> <p>3) 公教育制度を成り立たせている諸思想・諸理念や制度的諸原理について学びつつ、それらと現代日本の教育法規や家庭や子どもの教育・学習との関係について理解を深める。</p>		
履修条件・留意点	教職課程履修登録書提出者		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 <a href="https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html">https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html</a>		
学修の到達目標	<p>1) 教育に関する基礎的概念の理解と修得及び「教育」存立の諸要因とその相関関係についての理解を深め、「教育とは何か」に関して多面的に理解する。</p> <p>2) 教育の歴史について基礎的な知識の修得と、教育や学校をめぐる社会的・思想的基盤に関する歴史的理解に基づく教育や学校の変遷についての理解を深める。</p> <p>3) 教育に関わる思想や理念について理解しつつ、それらと実際の教育・学校との関わりについても理解を深める。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業についての質問やコメントについては、翌週の授業にて補足説明などを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1985 年に小学校、中学校、高等学校の教員免許状を取得し、京都府の公立中学校等で 2008 年まで 20 年以上にわたって勤務した経験を有している。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	<p>①『中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2020)</p> <p>②『高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示)』文部科学省 東山書房(2018)</p> <p>③『考えを深めるための教育原理』佐藤光友、奥野浩之 編 ミネルヴァ書房(2020)</p> <p>④『よくわかる 教育原理』汐見稔幸 他 編 ミネルヴァ書房(2011)</p>	ISBN	<p>①9784827815795</p> <p>②9784827815672</p> <p>③9784623088065</p> <p>④9784623059263</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		50

	【定期試験】WEB 試験	0
	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>授業は、履修学生が少人数であることを生かして、“能動的な”「学修」を求める。          なお、授業に際しては出席を重視しますが、これは試験が出来なくても出席をすれば単位認定されるということではない。試験問題は、積極的な受講態度と自主的な学修態度がなければ解答困難なものである。みだりに欠席をしないよう心がけることが大事である。          定期試験の問題には、記述式の出題が含まれており、用語の単なる暗記では解答できないので、授業内容を自分なりに要約して理解する必要がある。そのため、普段から授業時と授業後のノート作成が求められる。ノート作りについては、授業内で助言します。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ヒトと教育 ヒトと教育に関する諸概念	事前： ウェブページの検索（検索ワード「人類の起源と進化」、「ヒト 二足歩行」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第2回	オンデマンド	人間と教育 人間形成と教育の本質	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第3回	オンデマンド	人間社会における教育・学習の意義と目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第4回	オンデマンド	社会・文化と教育 ① 教育の意義・目標と社会・文化に果たす役割	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第5回	オンデマンド	社会・文化と教育 ② 教育の概念と学校教育の構成基盤(子ども・教員・家庭)	事前： ウェブページの検索（検索ワード「イニシエーション」、「通過儀礼」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第6回	オンデマンド	社会・文化と教育 ③ 教育の構成基盤とその関係の変化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第7回	オンデマンド	社会・文化と教育 ④ 教育の構成基盤の変化と学校教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第8回	オンデマンド	現代社会と教育 ① 現代社会の変動と生活の変化と学校教育の関係	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第9回	オンデマンド	現代社会と教育 ② 現代社会の変動と新たな文化の創造と教育の目標	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第10回	オンデマンド	現代社会と教育 ③ ジェンダーを題材に学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第11回	オンデマンド	現代社会と教育 ④ ポスト・モダンの学校教育を考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第12回	オンデマンド	教育の根源的意義と現代的意義・課題の振り返り	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第13回	オンデマンド	教育の歴史 ① 学習施設発生の社会的契機についての歴史的考察	事前： ウェブページの検索（検索ワード「文字の発明」、「文字の歴史」）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第14回	オンデマンド	教育の歴史 ② 古代文明と学習施設の発生から考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第15回	オンデマンド	教育の歴史 ③ 西洋古代の社会と家族における教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第16回	オンデマンド	教育の歴史 ④ 西洋古代の家庭、子どもと学習	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第17回	オンデマンド	教育の歴史 ⑤ 西洋中世の大学と庶民の教育	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第18回	オンデマンド	教育の歴史 ⑥ 西洋中世の社会と大学・学問から考える	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間

第19回	オンデマンド	教育の歴史 ⑦ 「学校」の叢生とその系統化	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第20回	オンデマンド	近代公教育の成立 ① 国民的義務教育制度（学校の制度化）の出現	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第21回	オンデマンド	近代公教育の成立 ② 公教育制度存立の社会的基盤	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第22回	オンデマンド	近代公教育の成立 ③ 公教育形成期の社会と家庭と子ども	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第23回	オンデマンド	近代公教育の成立 ④ 公教育の思想と教育の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第24回	オンデマンド	欧米の教育思想家 ① 子どもと家庭的環境への注目	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第25回	オンデマンド	欧米の教育思想家 ② 学校での学習に関する思想的転換	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第26回	オンデマンド	日本における学校教育制度の導入 明治期から戦前の制度理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第27回	オンデマンド	戦後日本の公教育 ① 教育を受ける権利と公教育の法理念	事前： 前回配布プリントの熟読、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第28回	オンデマンド	戦後日本の公教育 ② 公教育の法理念と家庭や子ども	事前： ウェブページの検索（検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第29回	オンデマンド	日本の公教育の今日的課題	事前： ウェブページの検索（検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間
第30回	オンデマンド	教育のポスト・モダンの思想と学校改革の可能性	事前： ウェブページの検索（検索ワードは時事的内容となるので、そのつど提示する）、 事後： ノートの整理と補足プリントの学習	4時間